

2016

第24回 外国人技能実習生・研修生日本語作文コンクール

The Award-winning Essays Collection of Japanese essay contest for technical interns and trainees

外国人技能実習生・研修生 日语作文竞演 优秀作品集

優秀作品集



はじめに

先ず以て、4月14日から発生した熊本大地震において被災された皆様に対し、心よりお見舞い申し上げます。復旧には多大なご苦労があるかとは存じますが、被災地域の日も早い復興をお祈りいたします。

さて、JITCOは、外国人技能実習制度が適正かつ円滑に推進されるため、総合的な支援・援助を行っております。その中で「外国人技能実習生・研修生 日本語作文コンクール」は、全国の技能実習生・研修生の日本語能力の向上支援の一環として1993年から20年以上に亘り実施されております。技能実習生・研修生が、実習実施機関を始めとする関係諸機関の方々や地域の方々と日本語によって円滑なコミュニケーションがとれることは、周囲との交流を深め、豊かな人間関係を築き、心身ともに安定した状態で充実した技能実習・研修生活を送ることにつながります。

第24回を迎えた今年度は、大きな災禍の発生にも拘わらず、1,937編もの作品が寄せられました。3段階に及ぶ厳正な審査を経て、最優秀賞4編、優秀賞4編、優良賞19編、佳作21編を選出し、計48編をこの「優秀作品集」に収めました。

応募されたどの作品からも、母国から遠く離れ文化・習慣が異なる日本の地で苦労や戸惑いを感じながらも、大きな夢と希望を抱き、コミュニケーション能力を高めながら、切磋琢磨し技能実習・研修に意欲的に取り組む姿が、ひしひしと伝わってまいります。ぜひご一読ください。

ここに、作品を寄せてくださったすべての応募者の皆様に心より敬意を表すると共に、技能実習生・研修生にお力添えくださった関係諸機関の皆様に厚く御礼申し上げます。

本作品集が、技能実習生・研修生にとって、日本語への関心をより深めるきっかけとなること、また、関係諸機関はもちろん、広く一般の方々に技能実習生・研修生への理解が深まる一助となることを心より願っております。

2016年10月

公益財団法人 国際研修協力機構
理事長 鈴木 和宏

目 次

応募状況と審査過程	1	
講評	2	
作品集 (48編)		
入賞者一覧	7	
最優秀賞 (4編)		
陈 欣静 CHEN XIN JING (中国)	危機一髪	8
グエン ティ クイン トー NGUYEN THI QUYNH THO (ベトナム)	私のキャンバス	10
グエン ファム フー クイン NGUYEN PHAM PHU QUYNH (ベトナム)	「いける」という言葉	12
ドリジンラガチャー ナサンジャラガル DOLJINRAGCHAA NASANJARGAL (モンゴル)	「私は仔牛のお母さん」	14
優秀賞 (4編)		
レ ヴァン トアン LE VAN TOAN (ベトナム)	私の兄さん	16
ビャンバジャブ エネレルサイハン BYAMBAJAV ENERELSAIKHAN (モンゴル)	いつもありがとう、日本	18
グエン ティ タオ NGUYEN THI THAO (ベトナム)	日本のお母さん	20
冯 利敏 FENG LI MIN (中国)	お土産一心への贈り物	22
優良賞 (19編)		
バトジャルガル バトチメグ BATJARGAL BATCHIMEG (モンゴル)	女性力	24
チャン カイン ドアン TRAN KHANH DOAN (ベトナム)	雨からのプレゼント	25
グエン ティ タオ NGUYEN THI THAO (ベトナム)	日本人と時間	26
ガンホヤグ ガンズル GANKHUYAG GANZUL (モンゴル)	震災で学んだこと	27
王 莹莹 WANG YING YING (中国)	日本の四季を探す	28
王 苹 WANG PING (中国)	母として	29
アマラシンゲ プディゲ ヤムナ ラランティカ AMARASINGHE PEDIGE YAMUNA LALANTHIKA (スリランカ)	日本で学んだ挨拶としゅうかん。	30
昂 萍 ANG PING (中国)	企業文化を学ぶ	31
ニュー ティ ラン NHU THI LAN (ベトナム)	日本で得た教訓	32
李 国滨 LI GUO BIN (中国)	日本で生活の感触	33
孙 金芝 SUN JIN ZHI (中国)	私の目を覚まさせてくれたかわいい後輩達	34
李 亚运 LI YA YUN (中国)	現場なりの「サ、シ、ス、セ、ソ」	35
グエン ダン タン NGUYEN DAN THANH (ベトナム)	言葉のコミュニケーション	36
ズオン ティ ゴック フェン DUONG THINGOC HUYEN (ベトナム)	壁	37
チン キム アイン TRINH KIM ANH (ベトナム)	日本でのレッスン	38
蔡 云坤 CAI YUN KUN (中国)	私の実習生活	39
吴 向梅 WU XIANG MEI (中国)	日本で見た美しい景色	40
チャン ティ ホア マイ TRAN THI HOA MAI (ベトナム)	日本に来てよかった	41
宋 鑫婕 SONG XIN JIE (中国)	異郷の旅、異郷の情	42
佳作 (21編)		
スギアント SUGIANTO (インドネシア)	友情	43
刘 婕 LIU JIE (中国)	もっと素晴らしい自分と出会うために	44

ファム ティ ゴアン PHAM THI NGOAN (ベトナム)	日本の桜……………45
ホアン ティ ニュー イ HOANG THI NHU Y (ベトナム)	日本の生活－初期の頃……………46
ブイ ティ ガー グェット BUI THINGA NGUYET (ベトナム)	志の強さ……………47
テュ ザー ウィン THU ZAR WIN (ミャンマー)	人生と植物……………48
崔 迎賢 CUI YINGXIAN (中国)	歩む道……………49
肖 蓬龙 XIAO PENGLONG (中国)	私の眼の中の日本……………50
石 鑫靚 SHI XINLIANG (中国)	娘への手紙……………51
エデイ プリヤント EDY PRIYANTO (インドネシア)	発展の道……………52
ヘンドリヤサリ HENDRIYASARI (インドネシア)	ルール……………53
ファム ヴァン ソアン PHAM VAN SOAN (ベトナム)	実習生の体験……………54
張 帥 ZHANG SHUAI (中国)	日本の景色を鑑賞します……………55
成 飛 CHENG FEI (中国)	私の研修生活……………56
グエン ヴァン ロイ NGUYEN VAN LOI (ベトナム)	日本人の寛容と灯りの美しさ……………57
朱 柳美 ZHU LIUMEI (中国)	メッセージ……………58
刘 丽 LIU LI (中国)	もっともっと……………59
ファジャリア セティアワン FAJARIA SETIAWAN (インドネシア)	一人ぼっち……………60
ドー タイ ヒエン DO THAI HIEN (ベトナム)	叱られて良かった……………61
ハー ハーイ イエン HA HAI YEN (ベトナム)	日本は私の2番目の故郷……………62
グエン イック キエム NGUYEN ICH KHIEM (ベトナム)	日本で見つけた宝物……………63

応募状況と審査過程

1. 応募総数 1,937編

国籍別内訳

中国	932編
ベトナム	709編
インドネシア	137編
タイ	41編
ミャンマー	50編
モンゴル	32編
フィリピン	21編
カンボジア	6編
ラオス	6編
バングラデシュ	2編
スリランカ	1編

2. 審査過程

審査は、例年どおり3段階で行った。第1次審査はJITCO職員が担当し、内容と日本語能力の観点から、上位48編を選出した。続く第2次審査では、JITCO役員5名による総合評価に基づき、27編が選ばれた。最終審査では、外部有識者を含む5名の委員が審査に当たり、審査委員会における協議を経て、最優秀賞4編、優秀賞4編、優良賞19編の入賞作品及び佳作を決定した。

最終審査委員

委員長	関口 明子	(公益社団法人国際日本語普及協会 理事長)
委員	坪田 秀治	(日本商工会議所 参与)
委員	関野 陽一	(元 山梨英和大学 教授)
委員	鈴木 和宏	(公益財団法人国際研修協力機構 理事長)
委員	新島 良夫	(公益財団法人国際研修協力機構 専務理事)



講 評

審査委員長 関 口 明 子

JITCO 日本語作文コンクールは本年で24回を迎えました。その間には阪神淡路大震災、リーマンショック、東日本大震災、そして今年の熊本地震等々がありました。技能実習生、研修生の来日が激減したこともありました。しかし、JITCO の作文コンクールは、続いてきました。そして回を追って技能実習生、研修生の日本語力や文化理解度等が上がってきていることを、そして周囲の同僚、上司の方々の涙ぐましいサポートを今回の審査でも実感いたしました。また、27作品の全てが、応募全作品の中から選出された秀品でしたので、本当に甲乙つけがたく審査員は各自採点に苦しみました。今回はテーマが自由ということもあって、多種多様な内容の作品が集まり、その中での豊かな学びや気づきが多く寄せられました。

それでは作品を見ていきましょう。最優秀賞は4名です。まず、「危機一髪」陳欣静さん（中国）です。危機一髪で自転車事故から免れた陳さんの文章は臨場感にあふれていました。「とまれ！あぶない！」と自転車を強く引っ張って助けてくれたおじいさん。その振動で陳さんの手から落ちたお饅頭。大きなトラックにひかれてぺちゃんこになったお饅頭。おじいさんに「馬鹿か、君！」とどなられ、その後交通ルールを守らない、命をどう考えているのかと叱られた陳さん、そしてそのままどこかに行ってしまったおじいさん。おばあさんのやさしいことばでの注意。クライマックスは、ほかほかのお饅頭をもってもどってきたおじいさんが黙って陳さんに渡す。あの怖いおじいさんが。驚きと感謝が良く伝わってきます。内容、構成ともに素晴らしい作品です。美辞麗句を並べるのではなく、陳さんの言葉で、陳さんの経験を一生懸命書いてくださっているところに真の迫力を感じました。

二人目は「私のキャンバス」グエン ティ クイン トーさん（ベトナム）です。日本での様々な経験を、キャンバスに塗られていく色にたとえ、キャンバスに色が次々と増えていく様子を書いた作品です。最初真っ白だったキャンバスが桜の季節にピンクと緑が塗られ、次に日本人が大切にしているチームワークを見習うようにしたら、気持ちが落ち着き、失敗が減ってきたということで会社のユニホームの青が加わりました。日本ではおばあさんもおしゃれをしている。クイン トーさんもおしゃれをして出かけるようになり、赤、黄色、紫が加わりました。長野でスキーを楽しみ、ふわっとした雪の、美しい白が加わりました。そしてラジオ番組にでる機会があってアナウンサーになりたい夢がちょっとだけ叶いましたので金メダルの金色が加わりました。クイン トーさんの独創的で軽やかな動きのある文構成は、一枚の絵画を彷彿させる、素晴らしい作品です。

三人目は「“いける”という言葉」グエン ファム フー クインさん（ベトナム）です。「いける」という

言葉に絞ってのクインさんの実体験を通しての話です。「焼肉にビールも結構いけるよね」クインさんは「行く」の可能形「行ける」は勉強したが、これはどういう意味なのか。今度は仕事で上司に「クインさんこれいける？」と聞かれ、わからないまま「はい」と答え、結局その場も過ぎてしまった。仕事にもできてしまったので、同僚に質問し、大笑いされ、ようやく行けるの意味ではないことを本当にわかりやすく説明をしてもらって助かり、それ以来日本語を一層面白く感じるようになり、頑張ったら日本語能力試験の一級（N1）もきっといける！としめくくっています。起承転結があり、情景が生き生きと浮かんできて、読者を惹きつけました。

四人目は「私は仔牛のお母さん」ドリジンラガチャー ナサンジャラガルさん（モンゴル）です。初めの頃「あなたは仔牛のお母さんだよ」と同僚に言われ、びっくりしたナサンジャラガルさん。今では本当に私は仔牛のお母さんだと実感しています。広い草原が続くモンゴルから酪農の実習にきた彼女はびっくりすることが多かったのです。遊牧民族のモンゴルの方から見て定住型の日本のやり方はずいぶん違っていたのでしょうか。牛舎の温度、清潔、消毒等に常に気を付ける。仔牛に対して人間の赤ちゃんと同じようにきめ細かな愛情を注ぐなど。ナサンジャラガルさんが徐々に慣れて受け入れていく姿が生き生きと描かれています。モンゴルのおおらかさを感じさせるいい作品です。

次に優秀賞4名です。「私の兄さん」レ ヴァン トアンさん（ベトナム）、「いつもありがとう日本」ジャンバジャル エネレル サイハンさん（モンゴル）、「日本のお母さん」グエン ティタオさん（ベトナム）、「お土産一心への贈り物」冯利敏さん（中国）です。尊敬する盲目のお兄さんや身近な日本の方への感謝の気持ちを丁寧に描いている選れた4作品です。

日本のどこかでこんなに真剣に生きている若者たちが、そしてそれを本気で支えている日本の企業や組合が、また、その陰でしっかりこの制度を守っている JITCO の姿があることを多くの方々に知っていただきたいといつも申し上げてきました。この度2016年度文化庁日本語教育大会に於いてはじめて、JITCO の日本語教育がとりあげられました。JITOCO の発表がありました。ユーモアを入れ乍らの、大変わかりやすい発表でした。私は自分のことのようにうれしく、誇りに思いました。

今回の作文コンクールでは女性が本当に沢山応募してくださり、いい作品を書いてくださいました。実習生の割合としては同じくらいですから、男性の実習生もぜひ応募していただけると嬉しいです。立派な文でなくてもいいです。日本人とは違った新鮮な目で気づいたこと、感じたことの中で、ぜひ皆にわかってもらいたい、知ってもらいたいという思いがありましたら、それを書いてください。その思いの強さが感動につながるのだと思います。

たくさんのご応募をお待ちしています。

作 品 集

※作品は、原文のまま掲載しています。

「第24回外国人技能実習生・研修生日本語作文コンクール」入賞者一覧

■ 最優秀賞 ■

氏名	作品タイトル	国籍	職種	実習実施機関	監理団体名
陈 欣静	危機一髪	中国	電子機器組立て	紀南電工株式会社	E L C 事業協同組合
グエン ティ クイン トー	私のキャンパス	ベトナム	電子機器組立て	株式会社ナカニシ	鹿沼機械金属工業協同組合
グエン ファム フー クイン	「いける」という言葉	ベトナム	工業包装	マップス株式会社	西日本海外業務支援協同組合
ドリジンラガチャー ナサンジャラガル	「私は仔牛のお母さん」	モンゴル	畜産農業	ヤマギシズム生活豊里実顕地農事組合法人	協同組合亜細亜の橋

■ 優秀賞 ■

氏名	作品タイトル	国籍	職種	実習実施機関	監理団体名
レー ヴァン トアン	私の兄さん	ベトナム	型枠施工	株式会社伸栄運輸	F・B・S 協同組合
ビャンバジャブ エネルサイハン	いつもありがとう、日本	モンゴル	機械検査	藤田螺子工業株式会社	椿インタワークス協同組合
グエン ティ タオ	日本のお母さん	ベトナム	ハム・ソーセージ・ベーコン製造	丸大食品株式会社	西日本流通サービス協同組合
冯 利敏	お土産一心への贈り物	中国	パン製造	岡野食品産業株式会社	協同組合岡野食品協力会

■ 優良賞 ■

氏名	作品タイトル	国籍	職種	実習実施機関	監理団体名
バトジャルガル バトチメグ	女性力	モンゴル	電子機器組立て	株式会社デルタプラス	椿トランステクノ協同組合
チャン カイン ドアン	雨からのプレゼント	ベトナム	建具製作	株式会社サイプレス・スナダヤ	製造産業技術協同組合
グエン ティ タオ	日本人と時間	ベトナム	電子機器組立て	グローリープロダクツ株式会社	ビジネス・コープ協同組合
ガンホヤグ ガンズル	震災で学んだこと	モンゴル	機械検査	藤田螺子工業株式会社	椿インタワークス協同組合
王 莹莹	日本の四季を探す	中国	機械加工	大弥精機株式会社	静岡県経友会事業協同組合
王 萃	母として	中国	非加熱性水産加工食品製造業	株式会社ふく衛門	下関食品流通協同組合
アマラシゲプティゲヤムナラソニカ	日本で学んだ挨拶としゅうかん。	スリランカ	耕種農業	鳥袋 利幸	公益財団法人オイスカ
昂 萍	企業文化を学ぶ	中国	仕上げ	シロキ工業株式会社	Jプロネット協同組合
ニュー ティ ラン	日本で得た教訓	ベトナム	鋳造	株式会社吉年	共進情報事業協同組合
李 国滨	日本で生活の感触	中国	溶接	日本街路灯製造株式会社	G T S 協同組合
孙 金芝	私の目を覚まさせてくれたかわいい後輩達	中国	婦人子供服製造	新木縫製	P N J 事業協同組合
李 亚运	現場なりの「サ、シ、ス、セ、ソ」	中国	プラスチック成形	テイ・エステック株式会社	E L C 事業協同組合
グエン ダン タン	言葉のコミュニケーション	ベトナム	仕上げ	若園精機株式会社	協同組合企業交流センター
ズオン ティ ゴック フェン	壁	ベトナム	プラスチック成形	株式会社アイカム	全国人材支援事業協同組合
チン キム アイ	日本でのレッスン	ベトナム	耕種農業	ホクト株式会社	東西商工協同組合
蔡 云坤	私の実習生活	中国	食鳥処理加工業	トリゼン食鳥肉協同組合	協同組合福岡情報ビジネス
吳 向梅	日本で見た美しい景色	中国	電子機器組立て	株式会社OSパートナーズ	加西商工会議所
チャン ティ ホア マイ	日本に来てよかった	ベトナム	仕上げ	兵庫ケーブル株式会社	情報ベンチャー協同組合
宋 鑫婕	異郷の旅、異郷の情	中国	ハム・ソーセージ・ベーコン製造	信越丸大食品株式会社	国際交流協同組合



危機一髪

陈 欣 静
CHEN XIN JING

「生まれ！危ない！」とお爺さんが後ろから私の自転車を強く引っ張った。バランスを崩して倒れた私の手から、饅頭が道路へ転がっていった。すぐさま目の前を大きなトラックが通り、ぺちゃんこになった饅頭が目に入り、はっと自分の不注意に気がついた。

今朝は絶好のサイクリング日和だと思い、自転車を漕いで道沿いの景色を楽しみます。お昼は大好きな饅頭を片手で持ち食べながら自転車に乗っています。何て気持ちがいいのだろう。食事に夢中になる私は、うっかり赤信号も気付かないまま歩道を横断しようとしていました。まさかこの瞬間、生と死の瀬戸際に立つことになるとは、想像だにできなかった。

「大丈夫？お嬢さん。お怪我ありませんか。」目の前に二人の老夫婦がいて、お婆さんはぼかんとした私を揺らしながら声をかけてくれました。横から「ばかか君！」とお爺さんに叱られた。「赤信号の意味が分からないのか？わしが一步遅かったら、君もその饅頭と同じだぞ！交通ルールを守るのは子供でさえ分かる常識なのに、こんな軽率な行動する大人の君、自分の命をどうするつもりだ？ふん！」怒っているお爺さんはどこかに立ち去った。

「お爺さんの言い方がきつくて、ごめんね！怖かったでしょう。でもお嬢さん、さっきは本当に危なかった！片手運転と信号無視は何れもルール違反ですよ。今回は幸い事故にならず済

んだけど、事故だったら自分だけでなく、大切な家族や友人を不幸にしまいます。何よりも安全が第一です。安全運転に心がけてください！」とお婆さんは優しく注意してくれました。その時、お爺さんが戻って来て、何も言わず私に新しく買ったばかりの饅頭を渡してくれました。まさかあの恐ろしいお爺さんが饅頭を買ってくれたとは思ってもよりませんでした。私は涙を堪えきれず、泣きながら命の恩人である二人に謝りました。

私も会社で、火災警報器という、火事の時に人に知らせてくれる大切な物を作る仕事をしています。たとえ実修生でも、重大な仕事を任されています。こんな人々の命に関わる物を作る時も、一瞬の不注意で油断したら、不良品を出して、大きな事故にもなりかねません。おっちょこちょいな自分がかっかりしました。この危機一髪のこと、自分の軽々しい行動を深く反省しました。自分の命は自分しか守れない。物造りもちゃんと自分が最後まで、作業に集中して責任を果たさないと正しく人の命を守ることができません。

もっと立派な社会人になるため、これから、自分の人生も仕事も、真面目で責任をもって着実に頑張ります。帰国したら、日本で習った知識と技術をいかして、人々を助ける優れた物を作りたいです。

受賞の喜び



陈 欣静

国 籍 中国
職 種 電子機器組立て
実習実施機関 紀南電工株式会社
監 理 団 体 E L C事業協同組合

今回、最優秀賞をいただき誠にありがとうございました。もうすぐ誕生日の私にとって最高のバースデープレゼントです。本当に感激しました。

こんな素晴らしい賞をもらえたのは、皆様のおかげです。会社の方々、組合の先生達、先輩と後輩のいろんな支えがあってこそ受賞ができました。本当に皆様に感謝します。

そして、大切な家族にも感謝したいです。いつも温かく見守ってくれてありがとう！わがままな私を最後まで応援してくれてありがとう！三年間離れて、親孝行もできなくなって、本当に恥ずかしいです。ごめんなさい！「パパとママと健ちゃん大好きです！ずっと愛してますよ！」

最後に、この最優秀賞を授与して下さった JITCO の皆様に感謝いたします。本当に光栄の至りです。誠にありがとうございました。



私のキャンバス

グエン ティ クイン トー
NGUYEN THI QUYNH THO

胸いっぱいの希望を持って、成田へ着いたのは、2014年2月14日バレンタインデーの日。回り一面が真っ白な大雪の日でした。暖かいベトナムから来た私には、すごく寒くて歯はカチカチ、歩くのも滑って大変でした。私が思っていた雪のイメージとは全く違うものでした。これからの3年間、私のキャンバスは「どんな色になるのだろう？」少し不安になりました。

私の住む町は、山に囲まれた静かな町です。通勤途中、道端に咲いている小さな花に気づき「なんて美しいだろう！」と感動し、立ち止まって写真を撮ったりすることもあります。桜の季節には、淡いピンクの花びらがひらひらと舞い、道はまるでピンクの絨毯です。そこを自転車で走ると、夢の中にいるようです。私のキャンバスには、淡いピンクと緑色が塗られます。

私は、とても慌て者で、よく考えずに言葉に出したり、何でも1人で出来ると思い込み行動して、失敗ばかりしています。でも、会社の日本人の先輩をみると、よく考えてから話をし、作業はとても慎重です。そして何より大切にしているのは、チームワークです。私も見習うようにしたところ、気持ちが落ち着き失敗が減ってきました。青のユニホームを着ると「私もチームの一員で、世界中に輸出している製品を作っているんだ。」という誇りとプライドが芽生えます。キャンバスには青色が加わります。

日本では、お婆さんがお化粧をして髪を染め

てお洒落をしています。ベトナムでは大変珍しいことです。初めは驚きましたが、とても明るく元気そうに見えて、今ではいいことだと思えるようになりました。私も出かける時少しだけお洒落をして出かけるようにしました。そして、キャンバスには赤色、黄色、紫色が加わりました。

いつもいいことばかりではありません。バイオリズムが下がって、何もかもが上手くいかず、ゆううつに思える日もあります。そんな時は「風が吹いている」という曲を聴きます。ソチオリンピックの素敵な映像と共に流れているこの曲を聴くと、なぜか力が湧いてきて元気になります。私は長野で、日本でしか体験できないスキーを体験しました。楽しくて忘れられません。日本に入国したとき感じた、寒い雪のイメージが一変に変わりました。雪は白く、ふわっとしてとてもきれいです。キャンバスには美しい白が加わりました。

先日、ラジオ番組に出て川柳を発表する機会がありました。アナウンサーになりたいという夢は諦めていましたが、ちょっとだけ夢が叶いました。金メダルには程遠いのですがキャンバスには、もう一色ゴールドが塗られました。真っ白だった私のキャンバスが今では何色もの色が塗られています。日本にいた3年間が自分の人生の中で、最も大切な時間だったと思えるよう、これからも、私のキャンバスに色を塗り続けていきたいと思えます。

受賞の喜び



グエン ティ クイン トー

国 籍 ベトナム
職 種 電子機器組立て
実習実施機関 株式会社ナカニシ
監 理 団 体 鹿沼機械金属工業協同組合

「トーさんの作文が最優秀賞に選ばれましたよ！」と電話を受けた時、受話器を持った手は震えだし、心臓はドキドキして、感激のあまり、涙がこぼれてきました。言葉でどう表現したらよいか分からないくらい、嬉しかったです。

そして、この受賞は、私一人のものではないと思っています。日頃、完璧でない私の日本語をよく聞いて理解し、正しい日本語で会話をしてくださる会社の上司、先輩、社員の方々。また、熱心に日本語を指導してくださるボランティアの先生。作文を書くにあたり指導してくれた、関係者のみなさん。みなさんの支えがあったからこそ、受賞できたものと、感謝の気持ちでいっぱいです。

また、この素晴らしい機会を与えてくださいました JITCO の皆様に、心より感謝し、お礼申し上げます。本当にありがとうございました。



「いける」という言葉

グエン ファム フー クイン
NGUYEN PHAM PHU QUYNH

日本での実習生活が始まってからいつの間にか一年が過ぎました。この一年の間にいろいろなことを学ぶことができました。

去年のある日、組合の先生が私たちベトナム実習生を食事に連れて行ってくれた時のことです。先輩たちがある言葉をよく使っていることに気がつきました。

「焼肉にビールもけっこういけるよね。」

「みんなはホルモンいける？」

「このデザートいけるね。」

とわいわい言っていました。その時、私は意味が分からなくて混乱していました。この状況で「いける」ってそれはどういう意味??終わってからどこかへ行くのか??とも考えましたが、どうやらそういう意味ではなさそうですし、変な解釈かなと思いました。

昔、動詞の可能形を勉強した時「いける」という言葉は「行く」の可能形で「行くことができる」という意味だと習いました。来日する前の私が知っている「いける」の意味はそれだけでした。しかし、日本に来て気がつきました。日本人は生活や仕事を問わず、よくこの言葉を使っています。

盛り上がる場で私は気になりながらも、その意味を聞きそびれてしまいました。そして後日。今度は作業中に職場のリーダーさんが私に聞いてきたのです。

「いけるか？」

また出た「いける」に不意をつかれました。「あと15分しかないけど、これいけるか？」

私は意味も分からないまま、「はい！」と答えてしまいました。でも、何となく早くしろという意味かなと思いました。でもそれなら、「このデザートいけるね！」の意味は…

余計なことを考えるのはやめて、少し急いで作業をしました。でも、一人でやっていたこともあり時間が足りませんでした。結局、他の人が手伝いに来てくれました。リーダーさんは私を叱りませんでした。私は何となく罪悪感を覚えて会社の人に「いける」の意味を聞いてみました。

「“行く”の可能形ですか? そうじゃなければ一体どういう意味ですか?」

彼女はこれを聞き大笑いしてしまいました。「この場合の“いける”は“行くことができる”という意味ではないですよ! 様々な意味があります。さっきの“行ける”は、時間があと少ししかないけど、クインちゃんはこの部品を完成することができますか? 終わりますか? という意味ですよ。他にも、よくできている、料理や酒などの味が相当に良い、という意味もありますよ。」

とてもわかりやすく説明してもらってから、私はやっと「いける」が持ついろんな意味や使い方を知ることができました。それ以来、私は日本語を一層面白く感じるようになりました。同時にその難しさも分かるようになりました。日本語がもっとうまくなるように、これからもっと頑張りたいと思います。頑張ればN1もきっと、いける!

受賞の喜び



グエン ファム フー クイン

国	籍	ベトナム
職	種	工業包装
実習実施機関		マップス株式会社
監理団体		西日本海外業務支援協同組合

日本における自分の体験をシェアしようと思って参加した今回の作文コンクールにおいて、まさか最優秀賞を受賞するとは思っていなかったのもとてもびっくりしています。

母国の家族の元を離れて来日してもうすぐ2年になります。自立した生活には困ることも面白いこともたくさんあります。マップス株式会社で実習できることを私はとても幸運に思っています。会社は有用な実習に取り組んでくださるだけでなく、生活についても私たちが気楽に相談ができるように配慮してくれます。また実習生のために日本語授業も実施してくれます。私たちのチャレンジを会社はいつもサポートしてくれます。それが私の心の支えになってもっともっと頑張ることができています。そんな会社に対して私は感謝以外に思い当たる言葉が見つかりません。

私にこのような素晴らしい機会と栄誉を与えてくださった JITCO の皆様、本当にありがとうございました。

最後に、作文コンクールの最優秀賞も「いけた！」



「私は仔牛のお母さん」

ドリジンラガチャー ナサンジャラガル
DOLJINRAGCHAA NASANJARGAL

私は仔牛のお母さんです。この言葉をみなさんがきいたらおかしいと思うでしょう。私も最初は「コウシ」は子供の名前かなと思いました。

私は一年半前モンゴルから酪農の研修に来ました。酪農部に来て、初めは仕事のことが何もわからないので先輩の君江さんと二か月間毎日一緒に仕事をしました。その時君江さんが「あなたは仔牛のお母さんだよ」と言ったのでびっくりしました。「私は牛じゃないけどな。ジョークを言ってるのかなあ」と思って笑っただけでした。でも今は私は本当に仔牛のお母さんになったと思っています。

仔牛が生まれたらすぐ私の所に来ます。仔牛の体を拭いて、体重をはかって、元気かなあとちょっと観察して、耳に番号をつけて、全部カルテに書きます。そこからお母さんの仕事が始まります。大きい健康な牛になるようにお世話して、愛して、育てます。

牛はストレスに敏感な動物ですから、安心して快適に生活できるように、牛舎の温度、乾燥、清潔、消毒などが大切です。エサ、ミルク、草とかご飯の時間は毎日同じにして、その都度適切なお世話をします。

私は毎日、どんな感じで一番元気に育つかを考えています。

人間のお母さんは自分の子供をどんな風に愛したりお世話しているか、それと同じ気持ちでやるのが一番大切です。

動物は人間の様に話せないし、考えることも

できないけど、自分を育ててくれる人の気持ちがわかるみたいです。牛は自分を担当する人の匂いと動きがわかるみたいです。私の仔牛も私がいないうち、寂しい、私に会いたい気持ちがあるみたいと牛の動きから私は思いました。人間のお母さんは子供が何も言わなくても、何が欲しいとか、何を考えてるのかわかります。それと同じです。

私達遊牧民族のモンゴル人の目から見て、定住型の習慣と日本の様な牛の飼い方はとても面白いと思いました。そしてそれを学ぶためにモンゴルから遠い日本に来ました。

日本の人たちの様になりたいと思ってやってきたことが、私に「仔牛のお母さん」の名前の本当の意味をわからせてくれたと思います。

そして私は牛のことだけではなく職場の日本の人達から色々なことを学びました。特に一日二回、生後十日までの仔牛の哺乳の仕事は職場の女の人全員でやります。それは皆で一緒にやるのでとても楽しい時間です。

私はこうやって仔牛のお母さんになりました。もっともっといいお母さんになれるように努力します。

そしてもう一つこの一年半の間に人・動物・自然の関係を考えました。私は人間、仔牛は動物、私と牛、牛と私の関係を考えた時、牛の気持ちがわかるようになりました。それがとてもうれしいです。

今から私は牛舎へ行きます。子どもたちが待っていますから。

受賞の喜び



ドリジンラガチャー ナサンジャラガル

国	籍	モンゴル
職	種	畜産農業
実習実施機関	ヤマギシズム生活豊里実顕地 農事組合法人	
監理団体	協同組合亜細亜の橋	

この賞を頂けることは今でも信じられません。でもとってもうれしかったです。今たくさんの方の顔が思い出されます。日本で実習をしているこの期間、今やっている仕事に気持ちを込めて、職場の人達と一つの心でやってきました。そのことで私は様々なすばらしいことを学び、この作文を書くことができました。ですから職場の人達、仔牛達にありがとうの気持ちで一杯です。

今オリンピックをやっていますが、モンゴルでは見たことがないたくさんの方の競技で日本人はメダルをとっていますね。それとテクノロジーは世界で一番だと思います。また日本には色々な大会やイベントがあります。私もマラソン大会、花火大会、お祭りに参加しました。日本にいる間に自分にできることを何でも体験してみたいです。そして日本語の本もたくさん読みたいです。そのために日本語をもっと勉強して上手になりたいです。



私の兄さん

レ ヴァン トアン
LE VAN TOAN

1975年ベトナム戦争が終わりました。

まだ戦争の影響の続く、1982年に兄は生まれました。兄が生まれた当時は、他の子供と同じ様に健康で可愛い子供で、遠くで働く両親の代わりに祖母が一人で育てていました。

兄は2歳の時に麻疹に罹ってしまいました。この病気に罹った時は鶏肉を食べてはいけないというルールがあります。そのルールを知らない祖母は、つい鶏肉を兄に食べさせてしまった。その直後、兄は見る見る目が真っ赤になっていき、何時間も泣き続けたそうです。

翌日早々、病院へ連れて行った時には手遅れでした。兄は盲人となったのです。

知らせを聞いて駆けつけた両親は愕然とし、母は突然の事に狼狽し深く悲しみました。しかし、父は「盲人になろうと何より、生きている事こそが一番大事な事だ」と言いました。

光を失った兄は、顔から笑顔が消え、どこにも行けず、暗闇の中でひっそりと生きています。

兄が8歳の時に私は生まれました。小さい私は、泣くとすぐ兄の膝に駆け込みました。兄の膝は、私にとって安心できる場所でした。

ある日、私は子供達にいじめられ泣いていると、何も見えないはずの兄が私をすっと抱いて「弟に触るな」と怒鳴り私を守ってくれた。兄に抱かれた私は安心と温かさを与えてもらった。私にとって兄は、誰よりも信頼できる存在となっていたのです。

小学生になった私は、学校から一目散に帰る

と、兄の傍に行き今日あった出来事を詳細に話してあげた。障害の為学校に行けない兄は「私は両親の世話はできないから、学校で真面目に勉強し、君が両親の世話をして下さい。」と私に何度も言い聞かせた。兄の願いを叶えたい私は必死に勉強し大学に合格しました。「君は私と家族の誇りです。」と泣きながら喜んでくれました。その時の兄の顔は本当に幸せそうでした、こんな顔初めて見ました。兄の喜ぶ笑顔が見たい。何事も諦めず、最後まで頑張ることを強く決心しました。

大学へ入学すると同時に、兄も念願だった楊枝工場に就職しました。今までは家族の助けなしでは生きていけなかった兄が、自らお金を稼げることは、社会へ踏出す大きな一歩となりました。私は障害を持つ兄から、何事も諦めず一步一步前に進むことの大切さを学びました。兄がいなかったら私が夢を見ることすらなかったかもしれない。

日本に来て文化や言葉の違いで大変なこともあるけど、夢を途中で諦める事は一度も考えなかった。残りの一年間、国の為、将来の為、家族の為、何より兄の為諦めず頑張っていきます。私には二つの夢があります。故郷へ帰り実習生として習得した技術と日本語の能力を活かして起業し、成功することそして二つ目の夢は、医療技術の進んだ日本で兄の目に再び光を取り戻すことです。世界の中で兄は小さな存在だけれど、私にとって兄は私の道を明るく照らしてくれる大きな存在です。

受賞の喜び



レ ヴァン トアン

国 籍 ベトナム
職 種 型枠施工
実習実施機関 株式会社伸栄運輸
監 理 団 体 F・B・S協同組合

私はレヴァントアンです。

第24回外国人技能実習生作文コンクールで優秀賞をいただきました。

日本に来てから、今まで一番嬉しい事だと思っています。F B S協同組合ふれあい事業協同組合先生にはいろいろと助けていただきありがたく思っています。日本の皆さんのおかげで、たくさんの日本語や技術を学びました。国へ帰ったら習った知識を使って日本のようなすばらしい国を作りたいと思っています。

ありがとうございました。



いつもありがとう、日本

ビャンバジャブ エネレルサイハン
BYAMBAJAV ENERELSAIKHAN

母国を離れたことはもちろん、1人暮らしすらもしたことがなかった私が、夢をかなえるために日本に来てもう2年以上経ちます。そんな私がまだ新入社員だったときのことです。その頃、私はよく仕事帰りに駅の近くにある100円ショップを訪れていました。

ある日、その100円ショップに50歳くらいで目が不自由な女性がいました。女性の周りには付き添いの人がおらず、勇敢にも1人で自分の足と白い杖だけを信じて歩いていました。私は、その姿を見て心が痛みましたが、同時に「すごい」と思い何故だか涙があふれてきました。もし私がこの女性のように目が不自由だったら、彼女のように強く生きる事ができるでしょうか。両目で不自由なく世界を見ているのにもかかわらず、私は臆病者で、消極的な人間だと恥かしくなりました。一度も話したことがない、名前も知らない女性だけれど、彼女からは強く生きる力を感じました。目が見えないということがどんなに辛いのか。彼女の生活が、ある経験を通してわかるようになりました。

彼女と出会ってから1年位後のある日、私は右目に強い痛みを感じました。そして、視力がどんどん低下して身の回りのものが見えなくなっていきました。眼科へ行くと、網膜剥離だと診断され、急遽手術が決まりました。本当に突然の事で、雷に打たれたような衝撃でした。

このままだと何も見えなくなる恐れがあると聞いて、神様に見放されたような気持ちでした。愛する人たちの姿が見えなくなる、夢をかなえられなくなるかもしれない、描いていた明るい将来に影が差したように思えました。

そんな私を、藤田螺子工業で働く先輩や仲間たち、椿インターワークスの皆さんが支えてくれました。また、遠く離れたモンゴルからお母さんが来て、身の回りの世話をしてくれました。多くの方々や、病院の先生方のおかげで無事に手術は成功し、私の視力は元に戻って、またみんなの顔を見ることが出来ました。支えて下さった皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

病気が治った後、私は自分の病気のことや目の不自由な人々の生活について調べてみました。すると、日本は障害を持つ人が不自由なく暮らせるような環境が整っていると感じました。歩道や駅の通路には点字ブロックがあります。様々な日用品や駅の地図、エレベーターのボタンなどには点字が施されています。また、電車内に優先席があり、盲導犬や介助犬などと一緒に乗ることが出来ます。その他にもたくさんの思いやりや工夫で、誰でも住みやすい街になっていると思いました。日本へ来てから、このように学ぶことがたくさんあります。毎日感謝の気持ちでいっぱいです。日本へ来て良かったと心から思います。ありがとう、日本。

受賞の喜び



ビャンバジャブ エネレルサイハン

国 籍 モンゴル
職 種 機械検査
実習実施機関 藤田螺子工業株式会社
監 理 団 体 椿インタワークス協同組合

この度は、私の作文を優秀賞に選んでいただきありがとうございます。この作文コンクールは、同じように日本で勉強している世界各国の実習生と競い合い、成長できる良い機会だと思います。このようなチャンスをくださった JITCO の皆さん、本当にありがとうございます。

今回、私は網膜剥離という病気にかかった時の事について作文を書きました。その中で私が伝えたかったのは、「長く付き合うと人の心がわかる」という事です。これは、モンゴルの諺です。人生には良い時も悪い時もあります。何年経ってもお互いを思いやって過ごせる人こそ、本当の友達です。日本にいる3年間、私が困っている時にはいつも実習生の仲間や、藤田螺子工業の皆さん、椿インターワークス協同組合の皆さんが支えてくれました。そんな皆さんに恩返しをするために、今まで以上に健康に気をつけたいと思います。

私は、もうすぐモンゴルへ帰ります。日本での3年間は、私に忘れられないほどの幸せな思い出、素晴らしい仲間たちとの出会いを与えてくれました。帰国しても日本語の勉強を続けて、何事にも一生懸命頑張っていきたいと思います。いつもありがとう。大好きな日本。



日本のお母さん

グエン ティ タオ
NGUYEN THI THAO

家族の生活を豊かにする事と、自分のより良い将来を創り出す為に、七ヶ月前に実習生として日本に来ました。日本の国は、自然環境も良く、とても清潔好きな国だと思いました。そして、人々は親切で温和な人が多い国だと感じました。

私は日本の生活に早く慣れるように、日本の習慣や日本語の習得に、力を入れています、困っている事も沢山あります。それは言葉の壁です。日本での生活の中で、嬉しい事や悲しい事を一番話したい人は、ベトナムの母ですが今はここに居りません。時々、ベトナムの母が恋しくてならない時、同僚に隠れて布団の中で目が腫れるほど泣きました。早く家へ帰って母を抱いて「愛している」と言いたい。私はこの言葉を恥ずかしくて、一度も母の前で言ったことがありませんでした。

私は食品会社で、働いています。私の会社の人達はいつも優しく親切で仕事を教えてくれたり、話しかけてくれたりして、とても嬉しいです。その中でも私は日本のお母さんと呼べる人に出会いました。お母さんはとても良い人です。日本に来たばかりなので、日本語が上手く話せません。話す事は難しく、困った時が沢山ありました。でも日本のお母さんは私の伝えたい気持ちを理解してくれ、私が分かるように、ゆっくりと簡単な言葉で手振り身振りを交えて話しかけてくれました

私の会社の寮は、交通が不便な所にあります。買い物に行く時は自転車です。四十～六十分かかります。

日本のお母さんは心配してくれて、時々スーパーやデパートなど、色々な所へ車で連れて行ってくれました。私は日本のお母さんと出会って、とても沢山の楽しい思い出が出来ました。その中で一番心に残ったのは、日本の成人式に出席できた事です。日本では二十歳になると「成人」と言う事になりますが、ベトナムは十八歳です。式典などはありません。ですから、成人になったという印象は全然なくて、成人式の意味さえ分かりません。日本のお母さんのお蔭で、成人式に振袖を着て出席する事が出来ました。振袖は日本の伝統的な和服で、ベトナムに居る時は、テレビや雑誌でしか見た事はありませんでした。いつか着られる事に、憧れていました。ですから、私は振袖を着る事が出来てとても興奮しました。日本のお母さんに、言い表す事が出来ないほど感謝です。式典に来ていた人達はとても幸せそうな顔でした。母親と同伴の女の子を見て、私はとても嫉妬しました。私だけ実の母がここに居ないと思いました。その時、日本のお母さんは優しく微笑んで、私の手を取って、「おめでとう」と言ってくれました。お母さんの手の温もりを感じて、日本のお母さんと、ベトナムのお母さんが重なって見え、涙が出てしまいました。ここでは私が一番幸せな人でした。私には母が二人も居ます。それは私にとって、日本に来て最高の幸せです。日本のお母さんに合わせてくれて、ありがとう、日本。

受賞の喜び



グエン ティ タオ

国 籍 ベトナム
職 種 ハム・ソーセージ・ベーコン
製造
実習実施機関 丸大食品株式会社
監 理 団 体 西日本流通サービス協同組合

自分の作文が受賞出来た事を聞いてその時とても とても嬉しかったです。

このことをすぐにも日本でのお母さんに知らせたかったです。

きっとお母さんも喜んでくれますと思います。

このような光栄なことを頂いて、本当に色々な人に感謝しています。

私の実力はまだそんな風に上手く作文が出来ていないですが、

西日本組合の人と私が今勤めている丸大食品(株)の会社の皆さんが色々アドバイスしてくれて、直してくれて本当に感謝しています。

受賞した以上、もっと頑張って日本語を勉強して

来年もまた作文コンクールに参加していただきたいと思っております。

これからも皆様に宜しく願いいたします。



お土産一心への贈り物

冯 利 敏
FENG LI MIN

中国でもお祝いに品物を贈ったり、友達同士でプレゼントを交換したりしますが、日本には「お土産」という日本独自の贈り物文化があることを中国で学びました。そして、日本で技能実習生として過ごしたこの2年間に身近に感じた「お土産」を通して、「物を贈り合う日本の文化」の本当の意味を知ることができました。

あれは工場で実習が始まったばかりのことでした。食堂で昼ご飯を食べていると「はい、どうぞ」と言いながら微笑んでいる日本人の先輩にお菓子を渡されました。それは先輩が旅行先から持って帰った「お土産」でした。私はとても恐縮しながらそのお菓子を頂きましたが、どうして知人でも縁者でもない新人の技能実習生にまで「お土産」を下さるのか分からなくて、戸惑いました。この疑問を以前日本語を教えてくれた先生に聞いてみると、先生は「そうですね、確かにあなたはその先輩の友達でもないし、職場に入ってきたばかりの新人です。でもあなたがその職場に入った時点で、もうこれから一緒に頑張っていく仲間だと皆さんに認められたのではないか。」と答えました。先生の言葉に私は胸が一杯になって、もの凄く感動しました。当時新しい生活や仕事に慣れてなくて何も上手くできなかった私は毎日が不安でした。あの「お土産」の小さなお菓子に励まされて心強くなりました。

中国に「每逢佳节倍思親」という昔の詩句があります。大体「節句になれば、家族と離れて

いる人はより一層家族のことを懐かしみます」と言う意味です。私たちもその通りです。中国の祝日、特に新しい年を迎える、日本のお正月にあたる「春節」の時、すごくホームシックになります。監理組合の事務局長さんは毎年春節に寮に「お土産」を持って来て実習生全員に渡してくれます。それは小さなチョコレートですが、私の心を温めてくれました。日本人には馴染みのない旧暦を調べてわざわざ来てくれて、友達も親戚もない国で、私たちも誰かに思われていること何より嬉しいのです。チョコレート一つで寂しい気持ちが追い出されるなんて本当に不思議です。私にとって、あれは魔法のチョコレートです。

それ以外でも私は何度も日本の方から「お土産」を頂きました。決して豪華なものではなく、例えおせんべい一枚にもきっと相手の優しさと温もりがあり、贈られた側には大きなパワーになるかもしれないです。「お土産」はとても良い物だと分かりました。

私はちょっと恥ずかしがり屋で、人への感謝や思いを時には素直に伝えられないです。相手にお土産などを贈ることこそ、その気持ちを形にするいい方法ではないかと私の中でこう思います。そして私もよく人に「お土産」を贈るようになりました。

「お土産」は心への贈り物、少しでも誰かを元気にすることが出来れば私の幸いです。

受賞の喜び



冯 利敏

国 籍 中国
職 種 パン製造
実習実施機関 岡野食品産業株式会社
監 理 団 体 協同組合岡野食品協力会

この度、優秀賞をいただきまして、誠にありがとうございます。受賞の連絡をいただき、体が震えるほど凄く嬉しかったです。多分今のリオオリンピックにメダルを獲得した選手達の気持ちと同じでしょう。

まず「作文コンクール」という形で、私たち技能実習生に心境を伝える場を作ってくださった JITCO の皆様にお礼を申し上げます。

時間の経つのが早い、私はもうすぐ実習を終え、帰国します。この三年間に、日本のいろんな所に行って、さまざまなことを経験してきました。仕事のことだけではなく、日本特有の社会文化や、日本人のおもてなし心など、たくさんの素晴らしいことを知って学びました。私にとって、本当に悔いのない旅でした。

最後に、勉強のチャンスを与えて、日々私たちを見守ってくださる日照春和、岡野食品協力会、岡野食品産業株式会社の皆様、そしていつもそばで支えてくれる仲間たち、本当に、ありがとうございました。



女性力

バトジャルガル バトチメグ
BATJARGAL BATCHIMEG

私はデルタプラスという工場で働いています。この工場ではブラジル、モンゴル、ペルーなどいろいろな国から来た女性たちが働いています。

みんなの希望や興味、働く目的それぞれ違います。お金を稼いで家を建てたいという人もいれば、美容整形をしたいという人もいます。大学に行きたい人も、生活費や子供の養育のため、という人もいます。

二十歳から五十歳までの女性たちが車の部品を組み立てるライン作業を行っています。一日中座って作業を行なう人も、立って作業を行なう人もいますが、年齢に関係なくお互いに思いやりを持って元気よく働いています。仕事に慣れていないときには、手や足が痛くなったり、指に水ぶくれができたりと、大変なことになる人もいます。

私も、仕事を始めたころは、こんな大変なことになって、泣きそうで苦しくてホームシックになって諦めそうな時がありました。

そのとき私は、こう考えて、覚悟を決めました。

「なぜ、なんのために私はここに来たのだろう。私もお金を稼ぎたい、マイホームを建てたい、私と同じようにシングルマザーで、子供の為に、自分のために、と働いている人もいます。痛みを感じているのは私だけじゃないし、私だ

けが外国から来ているわけではない」

このように覚悟を決められたのは、一緒に働いているみんなのおかげです。みんなは、同じ国から来たわけではないのに、いくら言葉の壁があっても、どれだけ疲れていても助け合いながら、教えながら仕事をし、仲間がいかに大切かということを感じさせてくれ、私に勇気をあたえてくれました。

みんなの外見はすごく優しく、柔軟で美人に見えます。しかし、内面はどんなことでも耐えられるような強い心を持っています。できないことでも、やりにくいことでも、大変であってもすぐに諦めるようなことはありません。みんなの勤勉努力、仕事にむかうその気持ち、忍耐力は本当に凄いです。どんな仕事でもよくできる勇気をもつ女性達です。私は、この力こそ「女性力」だと思います。

みんなのこのように素晴らしい姿を見ると、私は「女性ってどれだけ強いのだろう、私も頑張らないといけない」と思います。私も一つ一つ学んで、みんなみたい強い、立派な「女性力」を持った人間になるために努力をしています。

長時間の仕事で、どんなに疲れていても、眠たくても、痛くても、それを乗り越えて元気に前向きに頑張る、こんな素晴らしい「女性力」を持ったみんなと肩を並べて仕事をしていることを誇りに思いながら、これからも自分を切磋琢磨して頑張っていきたいと思います。

国	籍	モンゴル
職	種	電子機器組立て
実習実施機関		株式会社デルタプラス
監理団体		椿トランステクノ協同組合



雨からのプレゼント

チャン カイン ドアン
TRAN KHANH DOAN

私は、ベトナムより実習生として、愛媛県西条市にある木材の会社に在籍しているチャン・カイン・ドアンと申します。日本で実習をはじめから2年3か月になります。とても早く感じながら生活しています。日本へ来てから、生まれ育った故郷を思い出しながら、ベトナムの違いに驚きながら頑張っています。さて、私が日本へ来てから経験したことを話します。一年ほど前になりますが、その日は、天気が悪く朝から雨が降っていました。傘をさして、自転車でアパートへ帰っている時のことです。一人のお婆さんが雨の中をとぼとぼと濡れながら歩いていました。私は後ろからお婆さんの横を通り越すのがとても申し訳ない気持ちになり、そのお婆さんに「濡れたら体に悪いですよ。この傘を使って下さい」と言って、渡しました。お婆さんは何かびっくりしたような顔をしていましたが、その時は私も濡れてしまうので、すぐに帰りました。雨に濡れるのは嫌でしたが、気持ちはとても安心したような良い気持ちでした。それから、二日後の午後でした。会社の人私の作業場に、その時のお婆さんを連れて来られました。お婆さんはどうしてもお礼が言いたくて私を訪ねて来られという事でした、私はお婆さんの事が気になっていたもので、びっくりしました。お婆さんは、私の顔をのぞきこんで、この人に間違いはないですと言って、私の手を取り「本

当にありがとうね、同じ日本人でもこんなに心の優しい人には、なかなか会えないよ。私はもう歳ですが、長生をしてたら、良い事があるものだよ」と言って、頭を下げながら、お礼にと行って、お菓子の袋を持たせました。後で会社の人から聞きましたが、お婆さんは私に遭った時の会社の服を見ていて、訪ねて来られたそうでした。その時は、あのお婆さんは濡れずに大丈夫だったことが解り、とてもうれしい気持ちになりました。何故か、私を育ててくれた両親に心から感謝したくなりました、そしてふと、日本へ来てから日本語の勉強をしている時に聞いた“精けは人の為ならず”ということわざがある事を思い出しました、その言葉の意味を聞いた時はよくわかりませんでした、その時は自分なりに解ったような気がしました。人は誰でも一人では生きられません、自分以外の方全てに対して、優しい心を持てば、その優しさはいつの日か自分の為になる、その日が来なくても、優しい心を持つことが出来る自分が楽しくて気持ちが良い、幸せな気持ちになれるということがよく解りました。日本へ来てずっと、ベトナムとは異なる豊かさを感じさせられますが、国や文化や経済が違って、優しい心は同じで、人を幸せにしてくれる大切なものだと思えることが出来るました。あの時の雨はとても冷たかったけど、雨は私の心に優しいプレゼントをしてくれました。これからも自分の出来る優しさを忘れずに、頑張りたいと思います。

国	籍	ベトナム
職	種	建具製作
実習実施機関		株式会社サイプレス・スナダヤ
監理団体		製造産業技術協同組合



日本人と時間

グエン ティ タオ
NGUYEN THI THAO

どんな人にとっても、時間は平等です。大金持ちも、時間を買うことはできません。お金で買えませんから、時間はお金よりも大切だと言ってもいいかもしれません。

時間は大切なものなので、例えば、自分が集合時間に遅れてしまって他人を待たせてはいけません。このように、他人の時間を無駄にさせてはいけなると考えるから、日本人は時間をとてもよく守るのだと思います。

今年のお正月に、私は、USJへ遊びに行きました。ここは、大阪で一番楽しくて有名な場所です。だから、人がとても多く、アトラクションを楽しむには、長い時間待ちます。仕方なく私もあるアトラクションの長い行列に加わり、二時間程並んでいましたが、とても大変でした。

その時、ある事に気づいて、驚きました。私より後から来たのに、行列に並ばずに、先にアトラクションに参加している人がいたからです。一緒に行った日本人が「あの人はユニバーサルエクスプレスパスを買ったので、先にアトラクションに参加できます。あなたも、お金をもっと払ったら並ばないでいいですよ。」と教えてくれました。

ユニバーサルエクスプレスパスを売ること、USJは儲かるから満足でしょう。ユニバーサルエクスプレスパスを買った人も、並ばなくていいから満足でしょう。しかし、ユニバーサ

ルエクスプレスパスを買わなかった私のような人は、割り込みをされて待ち時間が更に長くなるので不満です。しかも、割り込みをされることについて、私は、USJから事前に何も聞いていません。

そもそも、お金を払えば割り込みをしてもいいなんて、日本ではそんなことが他にあるのでしょうか。日本では、駅やバス乗り場、スーパーや病院など、どこでもみんな並びます。もし、他の人より多くのお金を払ったら人気のあるレストランの行列に並ばなくてもいい、先に病院で診察してもらえというルールが作られたとしましょう。しかし、他人の時間を無駄にさせてはいけなると考える日本人は、そのようなルールは認めないのではないのでしょうか。お金持ちでも、他人の時間を無理矢理買うことはできないのです。

USJだけのルールなので、大きな問題ではないのかもしれませんが。一緒に行った日本人は、「恋人や友達と話していたら、待つのも大変じゃないでしょう。」と言っていました。しかし、日常生活を忘れて夢のような時間を楽しむ場所なのに日常生活でも認められないルールがどうしてあるのか、私には分かりません。また、いつもは他人の時間も大切にして、割り込みを許さない日本人が、他人の時間を奪う割り込みをしてもいいというルールをどうして認めているのか、私には分かりません。

日本は、やはり不思議な国です。あと一年半で技能実習は終わりますが、それまでに、私は日本が理解できるようになるのでしょうか。

国	籍	ベトナム
職	種	電子機器組立て
実習実施機関		グローリープロダクツ株式会社
監理団体		ビジネス・コープ協同組合



震災で学んだこと

ガンホヤグ ガンズル
GANKHUYAG GANZUL

自然とは、誰もコントロールできない壮大なものです。その中でも自然災害は、いつどこで起こるか分からないので、大きな被害が及びます。日本は、世界の中でも地震が多い国です。5年前に起こった東日本大震災では東北地方に大きな被害が及びました。

震災から1年後、私は Jica の「絆」というプロジェクトに参加して、10日間という短い期間でしたが、被災地を訪れました。復興中の被災地を見学して、実際の震災と同じ、マグニチュード7の地震を体験しました。また、当時の被災地の様子などを学びました。私が一番驚いたのは、悪夢のような震災からたった1年で壊れたビルや橋、道路などが元通りになっていたことです。こんなに短い期間で様々な施設を復元できる日本の技術や真面目な性格に感動しました。

プロジェクトに参加している間、自分が東日本大震災のような災害にあったらどうだろうと考えました。ある日突然自分の家が壊れて、身近な人が亡くなってしまふ悲しさや、行くところがない不安を抱えて生活していく事はとても辛いと思います。そんな中で、とある女性の言葉がとても印象的でした。彼女は震災の後、学校の体育館で家族と一緒に避難生活を送っていました。体育館の床は冷たくて、ゆっくり休む事ができません。そんな中で、彼女はおなかを

すかせた自分の子供に「明けない夜はない」という言葉を贈りました。どんなに苦しい時でも、いつか幸せがやってくるから、それまで我慢して、強い心も持っていようという意味です。彼女も、震災で辛い思いをしているのに、それを笑顔で乗り越えていこうという強い精神力を持った人だと感じました。それからは、彼女の辛い日々には比べたら、私の悩みなんて小さなことだと自分に言い聞かせて辛い事を乗り越えて来ました。

今回の震災に限らず、世界各国で様々な自然災害が起こり、その度にたくさんの方が辛い生活を送っています。国によって言葉や文化、習慣などは違いますが、この世界に暮らす仲間です。だから、国が違うからといって色眼鏡で見ないで、お互いに助け合う事が大切だと思います。東日本大震災の後、モンゴルをはじめとしていろんな国々が心の支援と物の援助をしたと聞いて、本当に良かったと思いました。震災から5年たった今も、まだ被災地には震災で出たゴミの処理などの問題が残っています。日本は発展した国なので、それらの問題を解決する力を持っていると思います。

被災地を訪れてから、日本に縁を感じて、絶対また来ようと思いました。そして今年、研修生として日本に来る事ができました。今でも夢のようです。日本で過ごす3年間は、私の人生の大切な経験になると信じています。この3年間で色々な事を学んで、今後その経験を活かしていけるよう頑張ります。

国	籍	モンゴル
職	種	機械検査
実習実施機関		藤田螺子工業株式会社
監理団体		椿インタワークス協同組合



日本の四季を探す

王 莹 莹
WANG YING YING

私は去年の10月に、日本にきました。期待感とうれしい気持ちもいっぱい、研修センターに着きました。その時の興奮は、今でも覚えています。

私は前から日本がずっと好きでした。日本と中国の四季の違いを知りたいです。それで、日本に着いた日から、四季を探し始めました。

日本の秋はどこですか？去年の11月に、研修センターの先生と一緒に富士五湖へ修学旅行に行った日は、天気も良くて、紅葉も絵のようにきれいでした。行った場所はどこでも清潔でした。中国は環境保護のやりかたを日本に学ばなければならないと感じました。その時、これは日本の秋だと思いました。でも、会社へ行った後、私は間違っていると思いました。休みの日、天気がよかったですから、寮の近くを散歩しました。たくさんの人が野良で働いているのを見ました。人々はキャベツやネギやミカンを収穫していました。突然、それは日本の秋だとわかりました。日本の秋は忙しくて、豊作です。

日本の冬はどこですか？私は季節の中で冬が一番好きです。私の故郷は洛陽という街です。洛陽の冬はとても寒くて、雪も降ります。私は雪が大好きだから、日本でもずっと雪を待っていました。でも、結局雪が降りませんでした。本当に残念でした。ちょっと寒くて、風も強く、雪がない。これが日本の冬だと思いました。

でもある日、私は間違っていると思いました。その日の朝、とても寒かったです。自転車で会社へ行く時、登校中の小学生から「おはよう」と挨拶をしてきました。最初はびっくりしましたが、すぐ「おはよう」と言い返しました。その時、私の心は溶けてしまいました。またある日、仕事で疲れて自転車で帰宅途中、寮の近くに住んでいるおばあさんから「お帰りなさい」と言ってきました。その言葉ですぐに心が温かくなり、疲れもなくなりました。その時、私はこれが日本の冬だと思いました。日本の冬は本当に友情と温かい気持ちで溢れてると感動しました。

日本の春はどこですか？洛陽の牡丹はとても有名です。毎年春になると、洛陽のいろいろな公園で牡丹の花見があります。日本の春もたくさんの花が咲きました。特に桜が満開の時、本当に童話王国のようにきれいです。空気がすがすがしくて、万物が蘇る、これが日本の春だと思いました。でも4月14日、熊本県でマグニチュード7.3の大地震が起きました。数十人が亡くなりました。たくさんの方が倒壊しました。でも日本中が積極的に救援して、共に災難を乗り越えるように協力していました。強く勇敢に災難に立ち向かう日本人の姿を見て、私は今年の日本の春は本当の意味で希望に満ちていると感動しました。

日本の夏はどこですか？楽しみに探しています。日本の夏もきっとすばらしいと信じています！

国	籍	中国
職	種	機械加工
実習実施機関		大弥精機株式会社
監理団体		静岡県経友会事業協同組合



母として

王 平
WANG PING

約2年前に、私は2歳の息子を両親に頼んで、来日しました。子供のために、何かあっても、一所懸命頑張ろうと自分なりに覚悟したつもりでした。

けれども、現実は甘くありませんでした。来日前、中国で5ヶ月勉強した日本語が、どれほど足りないのか、毎日実感していました。言いたいことは言えないし、指示なども聞き取れない日が長く続きました。それから文化の違いと生活習慣の相違がそれだけのプレッシャーになることは来日する前は想像もしていませんでした。

それより、もっと辛いのは息子と母親に会いたい気持ちです。吉幾三さんの「かあさんへ」とよく聞きました。聞くたびに涙を流せずにいられませんでしたが。母に会いたい辛さ、自分の事を思う息子の気持ちを考えると、もうたまりませんでした。

その中で、ある日、中国に居る息子が病気になった知らせを受け、「子供が辛いのに、母親としてそばにいてやるさえできない」と思うと「実習を諦めて、中国に帰る」と電話の中で私は自分の母親に叫びました。その後「しっかりしなさい」と怒られました「自分が選んだ道中途半端にし、あなたは どうやって自分の息子に説明するつもりなの？」と言われました。「それから、幸福も不幸も思い一つですよ。自分が幸せだと思い、楽しい事を見つけ、楽しそうに暮

らせば、それは幸せだし、自分が不運だと思い、毎日暗いことしか見えない、前向きな気持ちも持てず、良くなる努力もしなければ、それこそ、いいことが来ないよ」と電話が切られました。

けれども、これは私の新しい実習生活の始まりでした。母に叱られ、私は目を覚めました。確かに、私の今までの人生では逃げることばかりでした。子供がこの真似をすることは絶対嫌だと思いました。

私は自分を変える決心をしました。泣くことをやめ、楽しい事を見つける努力をしました。あれからよく会社の人と話をするようになり、日本の文化に触れる喜びを知りました。またテレビを見るようにして、家に居ながらも、日本の美しい景色を見ることができました。それから旅行にも行きました。京都のお寺や大阪のユニバーサルスタジオに魅了されました。時々美味しい料理を食べにも行きます。美しい料理、綺麗な景色、頑張っている私を写真にし、家族に送りました。それが家族への一番のプレゼントだと母に言われました。元気になった私の影響でしょうか、父も母もそれから息子まで元気になり、私がそばにいないのに、毎日が楽しそうに暮らしています。

母の言う通りでした。人間は幸せでも不幸でも自分の思い一つで決まってくるかもしれせん。それを体験できたこと、すごく幸運だと思います。また何事も諦めずに頑張ることだけは息子にもそうなってほしいと母として、切に願っています。

国	籍	中国
職	種	非加熱性水産加工食品製造業
実習実施機関		株式会社ふく衛門
監理団体		下関食品流通協同組合



日本で学んだ挨拶としゅうかん。

アマラシンゲ プディゲ ヤムナ ラランティカ
AMARASINGHE PEDIGE YAMUNA LALANTHIKA

日本は日が最初に昇る国と言われています。そして主要先進国の一つですがその技術いがい挨拶も有名です。挨拶は思い遣りの心だと思います。私の故郷のスリランカをはじめフィリピン、ベトナム、インドネシア、タイ、中国など、さまざまな国の友達の挨拶を見たことがありますが、日本人の頭を下げて御辞儀をする挨拶は世界の国々にはない特別なことです。

まずはじめに日本に来て初めて会った人に「はじめまして」と言われ、その後「どうぞよろしくおねがいします」と言われました。けれども、スリランカでは「どうぞよろしくおねがいします」という言葉がなかったので意味がよくわかりませんでした。しかし日本語を勉強したので言葉の意味がわかってきました。相手にこれからも手伝って欲しいときに使う言葉だと思います。これを言われた相手はいい気持で手伝うことができるからです。次に日本人がよく使う「がんばってください」という言葉があります。これには日本にだけあるとても良い意味があると思います。それは仕事も、勉強も、生活することももっといっしょけんめいにして下さいと言う意味だと思います。私も友達のために「がんばってください」と言われたら、とても嬉しくて「はい、がんばります。」と答えます。このように「どうぞよろしくおねがいします」や「がんばってください」などの言葉を日本人

が使うのは、子供のときから他の人をそんけいすることを習ってきているからだと思います。日本人の挨拶いがいにも日本で学んだしゅうかんがたくさんあります。

たとえば時間を大切にすること、こうきょうの場所でじゅんばんを守ること、げんかんで靴をぬいで、きれいにならべて入ることなどです。なにより、ごはんの前と後で食べものにたいしてもそんけいをこめて「いただきます」や「ごちそうさまでした」と言うことはとてもいいことだと思います。なぜなら私達のために命をくれた野菜や果物や動物、そしてごはんをつくってくれたみなさんにそんけいの気持をあらわす言葉だからです。

日本人の挨拶はみんなが気持よくせつするためのものだと思います。日本人はとてもやさしいと聞いていましたが、日本に来たらそのとうりでした。今は日本は私のだいにのこきょうだとかんじます。日本でたくさんのよいことを学んだので私の国に帰ってからもスリランカ人におしえたいです。

国	籍	スリランカ
職	種	耕種農業
実習実施機関		鳥袋 利幸
監理団体		公益財団法人オイスカ



企業文化を学ぶ

昂 萍
ANG PING

今の勤め先の企業採用面接の時、面接官に「日本企業の魅力は何ですか」と聞かれました。あれから1年の実習を経験し、当初の質問にうまく答えられるようになりました。それは、「企業文化」だと思います。

「企業文化」という抽象的な言葉は、テレビニュースや記事などから聞いたことがありますが、意味が分かりませんでした。そこで、私はいろいろ調べました。「企業文化は経営学用語の一つで、企業の独特の価値体系や行動規範を指す。企業の日々の生産活動において、全従業員の行動の基準になる」という。

私の周りにはあてはまる基準がたくさんあります。私の会社では、安全靴、保護メガネなどの保護具を着用しなければ、製造現場への出入りが禁止されます。これは、会社の全員で守らなければならない服装の基準です。一日の仕事は必ず朝礼の“品質不良ゼロで行こう！良し！”という指差し呼称から始まります。ラインの仕事が始まったら、“1個流し”（ワークを必要以上に作らないこと）という作業ルールを守らなければなりません。

私は最初このルールを軽視して、痛い目に遭いました。上司に自分の生産能力をアピールするために、ひたすらに作業のスピードを追求していました。常に後工程に3～4本のワークを流すことによって、後工程の作業者のセツトミ

スを招き、不良品を作ってしまいました。その後、品質教育を受け、深く反省しました。不良品のほとんどは作業ルールを無視することによるものだということが分かりました。品質だけではなく、一番大切な作業安全も同じです。すべての基準、ルールは会社の長年の生産活動の経験からまとめたもので、必ずその存在の理由があります。一見人を縛るような厳しい規則は、従業員の作業安全を守り、製造の品質を保証する貴重な企業文化の一つです。このような品質を大切にする文化の存在こそが、企業の繁栄を支えるものだと思います。

厳しいものだけなら企業文化とは言えません。やさしい一面もあります。例えば、会社は定期的に日本語教育を実施することや、毎年スピーチ大会を開くなど、実習生の語学力を身につけるように様々な取り組みを行っています。今私たちの職場では、作業日記を書くのは実習生全員の日課となっています。そのお陰で、現場で起こった問題をリアルタイムに報告でき、いろいろなトラブルを防ぐことができました。このような報連相の基準が、すでに実習生の中で定着し、誰でも同じようにやれる体制になっています。

会社の本当の強さは莫大の資本やカリスマ社長ではなく、大切なことを一つ一つ丁寧に人々に教えながら、そして人々と共に成長していく—良い企業文化ではないかと考えています。これから、私はもっと企業文化のことを学び、日本での経験を活かし、将来自分の国の経済発展に役に立ちたいと思います。

国	籍	中国
職	種	仕上げ
実習実施機関		シロキ工業株式会社
監理団体		Jプロネット協同組合



日本で得た教訓

ニュー ティ ラン
NHU THI LAN

私は今、大阪で実習生として働いています。
日本に来てもうすぐ3年経ちます。

最近、実習生の逃亡や、万引きなどの犯罪が多くなっています。初めて日本に来てまだ何も分からない時、いきなり、実習生の先輩に「前にこの部屋に住んでいた先輩が、万引きして逃げましたよ。あなたはそんな事しないでね。」と言われました。私はとても腹が立ち、3年間、絶対に悪い事なんかしないと誓いました。いつも出来る限り仕事を頑張って、日本の生活に慣れるようにしています。

1ヶ月前、私はインターネットで商品を注文しました。その人がどんな人か、何処に住んでいるか分からないのに、お金を支払ってしまいました。最近、インターネットでの犯罪が多いのは知っていましたが、その時は、同じベトナム人だから騙されないと信じてしまったんです。しかし、私は騙されました。お金を送ったのに、商品を送ってくれませんでした。私は会社の人に電話して、今どうしたらいいのか相談しました。騙した人は日本人かベトナム人かと聞かれ、私は涙が出てきて、とても恥ずかしかったけど、ベトナム人だと涙声で言いました。私は人を信じたのに、どうしてそんな悪い事を私にしたの？と泣きながら話しました。知らない人をそんな簡単に信じたらダメと怒られました。私の目の前が真っ暗になり、誰を信じたら

いいの？誰に頼んだらいいの？そんな事ばかりが頭の中をぐるぐる回っていました。

次の日、会社の人と郵便局と警察にお金を取り戻してくれるようお願いに行きました。戻る可能性がほとんどないのは分かっていましたが、微かな希望を持っていました。3週間後、郵便局から連絡がありお金は戻らないと言われて、もう一回がっかりしました。私の望みが絶たれたと感じました。でも、その2日後警察から電話があり、カードの名前から、私を騙した人が見つかり、その人が私にお金を返してくれるとの事でした。私は、それを聞いて跳び上がって喜びました。感激の涙を流して、何度も警察と会社の人にありがとうございました。あまりに嬉しくて、それ以外の言葉が出て来ませんでした。

3年間の日本の生活でこの経験は一生忘れられない出来事です。決して人を信じないという訳ではありませんが、今後は今回の事を教訓に、もっと気をつけていかなければならないと思っています。私の望みは、誰も私みたいに騙されない、誰も人を騙さない事です。

今回、途方に暮れていた私を会社の人が自分の事のように心配し悲しんで怒ってくれました。そして警察に連れて行ってきて、警察の方々も一生懸命に捜査してくれたお陰で、一度は失ったお金が戻ってきました。お金が戻った時、会社の人達と泣きながら笑いました。世の中には悪い人も居るけど、それ以上に良い人も居る、これも今回私が学んだ教訓です。ご協力いただいた皆様に深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

国	籍	ベトナム
職	種	铸造
実習実施機関		株式会社吉年
監理団体		共進情報事業協同組合



日本で生活の感触

李 国 滨
LI GUO BIN

私は中国から研修生として日本に来て二年めです。毎日工場働きながら、考えることがあります。それは年齢的にも一人前の大人の私なのですが、私が一人前の大人になったのは中国で育った時ではなく、日本に来た今だったと思うことです。

その理由は、大人の私が母国を離れ、外国の日本で見聞した経験は、母国では経験できないものだったと実感しているからです。異文化を感じて、母国の文化をよりよく知ることになる。母国を出たからこそ、母国や日本の良い点と改善すべき点がわかったと感じたのです。

現在、日本は他国から、モラルの点で、また他者への気遣い（おもいやり）などの点でも民度の高い国民と評価されています。

「自分がされて嫌なことは他人にしない。」「己の欲せざる所人に施すことなかれ。」二千年以上前の中国を生きた孔子のことばですが、日本人の人に迷惑をかけない姿勢。これは実は古代中国の訓えを日本が独自にアレンジしたものと親しい日本人に教えてもらいました。聞けば、今から三百年ほど前の江戸時代の日本で、武士（サムライ）や彼らの子どもたちが寺子屋（今で言えば学校）で身に付けた学問の教科書に当たる物が、孔子の著した「論語」をはじめとした四書五経だったとのことでした。ということ、高い民度を世界中から評価されている

日本人の精神的な基礎は、中国が発祥だったのです。

日本人の素晴らしさの元が古代中国にあると知った時の誇らしい気持ちはほんとうに不思議な感覚でした。だから、ごく一部の中国人だけがしてしまった良くないことが、極端に大きく、偏って報道されることがあり、まるで中国人の代表のように扱われた結果、中国人と日本人の聞きはとて大きいと周りの国々から思われていることは、私にとってとても残念なことです。

日本にも良くないことをする人は居ます。また、とても良い中国人もたくさんたくさん居ます。中国には日本の十倍の人が居ます。でも、どれだけ中国人が口で話しても、周りの国の人が認めないことには日本と中国との差は、縮まっていかないでしょう。

そして、先ほどの日本人の民度に話を戻しますと、GDP や GNP で比較すれば、中国は日本に肩を並べ、その後追い越したと言えます。でも、ルールを守る。自分のことは後回しにする。人に迷惑をかけない姿勢。これらは素晴らしいことと思います。たしかにこれらの点では日本が先を行っています。でも、将来的に中国は、日本と肩を並べる国になるはずで、大昔の日本のお手本だった国ですから。

日本に居る間に、私が学ぶことはたくさんあると思います。これからは、中国も日本も知っている私が、世界的に見ても立派な一人前の大人になれるか、私自身がとても楽しみです。

国	籍	中国
職	種	溶接
実習実施機関		日本街路灯製造株式会社
監理団体		G T S協同組合



私の目を覚まさせてくれた かわいい後輩達

孙 金 芝
SUN JIN ZHI

私が日本に来てもう2年以上が過ぎました。仕事の技術は上がったかも知れませんが、日本語はまだ自信がありません。今その私が少しずつ変わろうとしています。

私が実習している所は山や畑ばかりで遊ぶ所がなく、休日はインターネットをして過ごす位でした。日本に来る前はもっと近代的な街並みを想像していたので、初めて会社に来た時は少しがっかりしました。そのせいか本当は明るい性格なのに段々内向的になってしまいました。ですから私は会社の人とも積極的に話しませんでした。その影響が今になって私の日本語を苦しめています。日本語に対する向上心がなくなっていた私は、今年の初めまでもっと上手になろうという気持ちにはなれませんでした。

昨年夏頃に社長さんは私達を呼びました。そして「来年1月に新しい実習生が来ます。でも次の実習生はカンボジア人です。皆さんは先輩方だから面倒をみてあげてください。そして仲良くしてください」と言いました。私達はとても驚く同時に、一緒に生活できるだろうか？と不安でいっぱいになりました。中でも一番不安に思ったことは「会話はどうするの？」ということでした。今まで実習生同士では中国語で話すことも多かったのに、これから新しい実習生と話す言葉は日本語しかありません。私はリー

ダーとして日本語で意思を伝える自信が全然ありませんでした。

そして、今年の1月にとうとうカンボジアからの実習生二人が私の会社にやって来ました。二人の性格はとても明るくて私達にどんどん積極的に話しかけてきます。このパワーに私達は圧倒されました。最初私はスマホの翻訳を使って会話をしようと思いました。でも二人はスマホを持っているのに全然使おうとしません。辞書を片手に書いたり動作をしたりして伝えようとするのです。それでも二人は仕事で使う専門用語はまだわかりません。私は二人が困っている時に間に入って手伝ってあげるようになりました。もちろんその時に話すのは日本語です。また、生活で分からないことがあると何でも私に聞いてきます。今までは中国語で解決してきたのに、今は二人と日本語で解決しています。いつしか私はリーダーとしての責任を意識するようになりました。一緒に生活を初めて3ヶ月が過ぎましたが、二人とは仕事以外の時も一緒に買い物や料理をして、とても良い関係が築けています。先日も組合の人から「孙さん、最近日本語が上手になったみ」とほめられました。このまま帰国するまで、何となく過ごそうとしていた私の目を覚まさせてくれたのは、二人のかわいい後輩達です。勇気を持って話せば環境が変わることを二人の後輩から教わりました。私は二人にはとても感謝しています。今年の10月に帰国する時は、ちゃんとお礼を言うつもりです。私はこれからも二人の力になりながら、残り少ない日本での生活を一緒に歩んで行こうと思っています。

国	籍	中国
職	種	婦人子供服製造
実習実施機関		新木縫製
監理団体		PNJ事業協同組合



現場なりの「サ、シ、ス、セ、ソ」

李 亚 运
LI YA YUN

日本に来る前は「日本」という言葉を誰かから聞かされても、何にも頭に浮かばなかった。それほど、興味がなかったのだろう。

それから数年、日本という国に興味を持ち始めたのは6年前の日系企業に入った時でどうやったら根気強く、また模範的な姿勢で仕事に取り組めるのか疑問を抱いたまま、私は日本語の勉強を始めました。

それから、3年が経ち言葉だけでは物足りないと感じながら、実習生として、日本での生活が始まりました。働き始めた当初は、周りにいる従業員の皆さんは真剣な顔をして、自分の目の前にある製品を組み立てる仕事に集中している姿が目に見えました。やっぱりラインの仕事は疲れるし、雑談とかする気持ちにはならないんだなと思っていました。しかし、それも時間が経つにつれて徐々にそうではない事に気がつきました。誰でも自分の受け持つ仕事を確実に、不良品を発生させない、流さないように頑張っています。製品は自分の手と目でしっかりと検査してから、次の工程に流します。厳しい検査を通り抜けた日本の製品の品質は極めて優れていると言われる由縁で、それを支えているのは現場の従業員です。現場にいる従業員は毎日、忙しそうに仕事をしていて疲れもあると思うのですが誰一人として文句は出ません。何故でしょうか。それはすぐに解りました。ラインの

管理者達も人にあれこれと指示をして仕事をやらせるのではなく、作業員と一体となり同じ気持ちで汗・水を流して一緒に仕事をしています。実習の職場がこのような雰囲気だとは考えてもみなかったです。

それにすごいと思うのは前工程の製品が自工程まで無人で走り回る自動台車です。仕事経験を持っている私にとっても、製品を無人の機械が正確に、且つ安全に目的地に送るのは流石、技術力の高さに感心しました。

私は先輩方を尊敬しており、長時間同じ作業を続ける事になっても、いい加減な態度は絶対取りません、作業の手順が記された作業標準書通りに作業していて、身勝手な作業は行いません。それに日本に来て優しさに触れた事もありました。仕事は厳しいですし生産数が多く忙しいのに、悪天候の際に帰れるかを気に掛けてくれ、常に人情を第一に考えてくれます。日頃の「気を付けてね!」という一言も、言葉以上に温もりを感じます。「どうしたの! そうなんだ!」という声掛けが相手のこと心配しお互いに協力し合う。こういう感情がある人が家庭の一員なってほしいなあと思っています。

現場なりの「サ、シ、ス、セ、ソ」「流石、親切、すごい、先輩(が頼りになる)、尊敬できる」って、このような言葉を全てが備えるはずはないと思っていた私は、たった4ヶ月だけで、ここまで深く体感でき驚きました。

国	籍	中国
職	種	プラスチック成形
実習実施機関		テイ・エステック株式会社
監理団体		ELC事業協同組合



言葉のコミュニケーション

グエン ダン タン
NGUYEN DAN THANH

ベトナムの貧しい田舎で生まれ育った私は学生時代から日本で働ける事を憧れとしてしました。しかし誰一人として私の考えを支持してくれる人はいませんでした。自分の将来と家族の娘としての責任を強く思い、精一杯頑張りたいという考えを皆さんに伝え、ようやく技能実習生として日本に来る事が出来ました。

日本に来たら自分の親が心配していたことが本当に分かりました。やはりいろいろなことがありました。

日本に来る前に日本での生活に溶け込むために故郷で日本語を一年間ぐらい勉強しましたが会社に入ったばかりの時皆さんは私は何を言っているのか分からなく、その上話しをする時に沢山の誤解もありました。私は元々人と話す事が苦手でほとんど人と口を利きませんでした。その為会社の人とコミュニケーションはなかなか出来ませんでした。その時私は皆さんと言葉の壁で隔てられ、まるで別世界にいるかのようでした。自分の自信が消えつつあり日本語が怖く感じてしまいました。

私の仕事は金型の仕上げ作業です。金型がピカピカになるように砥石を使用して磨く事です。この工程は簡単そうに見えますが、金型の Cutter 目が凹んでしまわないように磨くのはとても難しいです。何故かと言えば製品公差は±0.2ミリぐらいだからです。作業中はリーダーに

何回かチェックを頼む必要がありますが、私は発音が苦手で確認を頼めば皆さんに笑われると思い確認してもらわずに磨き続けました。その結果は磨きすぎるというミスをしてしまいました。その時厳しい顔をしているリーダーが私に聞きました。「不良の原因はどうしてですか？タンさん分かりますか？」私は顔が真赤になってどう答えていいか分からないうちにリーダー言いました。「あなたが出来ないからでなくはっきり指示を確認しなかったからです。分からなければ聞かなくては駄目ですよ。日本語を話さずに勉強するでは宝の持ち腐れのようなのですよ。」この言葉は本当に私に衝撃を与えてくれました。今の私は毎日日本の本を読書します。会社の休憩時間には皆さんに話しかけるようにしています。日本語を使えば生活も仕事も出来ると思うからです。

長い人生の三年間を日本で生活する事は私の人生で貴重な三年間になります。日本に来て先進国の文化を肌で感じ体験出来る事はとても良い経験です。日本で学んだ事でベトナムに帰ってからの生活はもとより仕事にもとてもプラスになると信じています。これは後輩をはじめ日本を知らなかった前の私のような人に今後笑顔をして話してあげたいと思っています。

国籍	ベトナム
職種	仕上げ
実習実施機関	若園精機株式会社
監理団体	協同組合企業交流センター



壁

ズオン ティ ゴック フェン
DUONG THI NGOC HUYEN

私の中に壁がありました。他の人には見えない壁です。その壁はなかなか壊われません。

日本に来る前に、日本はいい国だし、きれいな景色が沢山あるので行ってみたいとずっと思っていました。2013年10月に技能実習生としてようやく日本に来る事が出来ました。想像以上にきれいでした。その他にも面白い事が色々ありましたが、やっぱり日本はいいですね、ずっと居たいと思いました。

しかし、日本の会社の環境は厳しいと分かっていますが、会社で実習を始めて、ショックを受けました。どうしてそんなに厳しく仕事が出来なのか疑問に思いました。日本に来たばかりの私は日本語がまだ下手ですから、日本人と話したくてもなかなか声が出ません。聞きたい事があっても声が出ません。恥ずかしくて怖くてすごく寂しかった私は母国に帰りたと思いました。ここに私の居場所じゃない、この素敵な国に私の場所はない。日本語の勉強もしたくない、心がますます狭くなってしまい、私の中にある壁がまた高くなりました。そんな一年間が経ちました。ある夏の日、仕事が終わっての帰り道、一人のおじいさんに会いました。いきなり「xin chao」って言われて、びっくりしました。でも、ものすごく嬉しかったです。日本人から声をかけられ、日本語が下手な私に一生懸命話してくれました。感動しました。

「私の娘は今年26歳です、あなたは何歳ですか?」「私は24歳です」「娘と同じくらいだ、だからお父さんお母さんで呼んでいいよ」「本当ですか!ありがとうございます。」嬉しい。その時から、私の心は開いて、また日本語を勉強したくなりました。お父さんお母さんともっと話したい、日本の事をもっと知りたい。また、ベトナムの事を教えたい。お父さんお母さんと出会った事で、仕事での壁も段々低くなり、日本語の学習意欲も高まった。

日本語がまだまだ未熟の私は2015年12月に JLPT 日本語能力試験の二級に合格しました。

いつも私の事を気遣ってくれて、私の事を子供みたいに思ってくれているお父さんお母さんに感謝しています。お父さんお母さんの事を本当の自分のお父さんお母さんのように思っています。お父さんお母さんが教えてもらった事のおかげで日本の生活は楽しくなり、人生が本当に変わりました。

もし、お父さんお母さんに出会えていなかったら、多分3年間ずっとその壁を抱えていくと思います。けれど、今その壁はもう消えました。今度2016年7月に一級に挑戦します。受からなくても、今の私は自信を持って先に向かっていきます。

「高い壁を乗り越えた時その壁はあなたを守る砦となる」と思います。

皆さんも自分の中に壁があるのではないのでしょうか?その壁を乗り越えて、自信を持って日本に居る時間を楽しみましょう。

国	籍	ベトナム
職	種	プラスチック成形
実習実施機関		株式会社アイカム
監理団体		全国人材支援事業協同組合



日本でのレッスン

チン キム アイン
TRINH KIM ANH

もし、飲みかけのペットボトルがあるとしたら、皆さんならどうされますか？

捨てますか？置いて行きますか？それとも持って帰りますか？

ベトナムにいた頃、私は日本の会社で働いていました。ある日、会社の会議でテーブルに一人一本ずつのペットボトルが用意してありました。会議終了後、掃除をしていた時、ある事に気付きました。日本人社員のテーブルにはペットボトルは一本もなく、ベトナム人社員のテーブルはキャップが空いている飲みかけのペットボトルが残されていました。私はすごく驚いて、その話を日本人の先輩にすると、「日本では飲みかけの物は、持って帰って飲むのが習慣ですよ。飲み物を無駄にはできないからね。」と説明してくれました。私は日本人は不思議な人だと思いました。

それから実習生として、日本に来てから日本の生活や仕事の中から色々な事を学びました。ゴミの分別がそれです。家庭でも会社でも燃えるゴミや不燃ゴミ、缶やビンも分けています。バーベキューをする時も分別しています。日本では、これが当たり前なのです。

又、会社では寮から職場まで3回も靴を履き替えています。会社の玄関や職場の入口でも履き替えています。それに加え、服の表と裏も粘着クリーナーでコロコロをしています。職場に

入る前に全身のエアークリーナーと、またコロコロをするのです。初めてそれを体験した時、「なんで？」という大きな疑問が生まれました。でも、その後所長から仕事で清潔にする為の説明がありました。ホクトという会社はきのこを作っていて、お客様に安心、安全なおいしい商品を作り、届けています。だから異物が入らないように細心の注意をはらっているのです。

私は日本に来て、ようやくベトナムの日本人がペットボトルを持ち帰る意味が分かりました。物を大切にすること。お客様の為に細心の注意を払っていること。そしてそれが、信頼関係を作るという事を学びました。

私は今、実習生活の中で信頼関係を作る為のレッスンを受けています。

そして、ベトナムに帰ってから多くの人に伝えていきます。

国籍	ベトナム
職種	耕種農業
実習実施機関	ホクト株式会社
監理団体	東西商工協同組合



私の実習生活

蔡 云 坤

CAI YUN KUN

私が日本に来た目的は、楽しい人生にするためと、私の家族にもっといい生活をさせるためです。夢をもって昨年9月、日本での三年間の実習生活が始まりました。

最初は日本の新しい環境に好奇心を持ちましたが、すぐには日本の生活に慣れず、また子供に会いたくてホームシックになってしまいました。夜になると布団の中で泣いてしまって、すごくみじめな気持ちにもなりました。その時、組合の先生がとても親切にしてくれましたので、気持ちが楽になり、いろいろなことを乗り越えることが出来ました。

会社で日本人の社員と交流するたび日本語が通じないことに悩まされ、段々と私は日本語を勉強したい気持ちが強くなってきました。

日本はとても礼儀が正しい国だと、日本へ来る前に聞いていた通り、私の会社もとても礼儀を重視している会社です。毎朝社員同士が会うと「おはようございます」と言い、仕事が終わった後「お疲れ様でした」と言います。仕事中心も、私は日本人の真剣な仕事ぶりに感心しています。「これが長いから切ってください」「これが汚れているから洗ってください」と私から見ると全く問題にならないようなことをよく言われます。リーダーである私は、仲間のいいお手本になるように言われている事を、最初はなぜ言われているのか分からずに素直に「すみませ

ん」「気をつけます」と言えませんでした。

私の仕事は包丁で鶏肉を切ることです。包丁を自分でときどき研ぎます。ある日、現場に置いたつもりの私の研ぎ棒が見つからなくなりました。無くなったことをあまり深く考えてない私は、いつも優しくかった課長から激しく怒られました。本当に怖かったです。その後課長に手伝ってもらって、研ぎ棒は見つかりました。課長は私に「蔡さん、仕事はまじめに真剣にやってほしい。研ぎ棒一本でも、もし機械に巻き込んだら機械が壊れ、また肉と一緒にお客様の口に入ったら、お客様は怪我をします。どちらも会社に大きな迷惑がかかります。」と課長はいつもの優しい顔に戻って私に言いました。私は課長の顔を見て何も言えず、ポロポロと泣いてしまいました。なんと素晴らしい人かなと思いました。

今、私は毎日本当に楽しい実習生活を送っています。毎日日本人と仲良く仕事をし、日本語で支障なく交流しています。休日に友達と自転車で日本の美しい景色を楽しんでいます。行くところたくさん写真を撮って、帰国後家族にお土産として見せたいです。また会社で経験した事も家族に伝えたいです。きっと家族は成長した私にびっくりすると思います。実習生として、日本に来たチャンスがあったおかげで、私はいろいろと貴重な体験ができました。日本で習ったことが私にとって一生の思い出になり、大切な財産になると思います。

国	籍	中国
職	種	食鳥処理加工業
実習実施機関		トリゼン食鳥肉協同組合
監理団体		協同組合福岡情報ビジネス



日本で見た美しい景色

吴 向 梅
WU XIANG MEI

たとえ、夜のひどい嵐であっても、そこに暖かい光がさすことのように美しいと感じます。

今回、私が書こうと思ったことは、昨夜、イオンの百円ショップへ買い物に行った時に私に起きた景色です。

買い物が終わり、店を出た時に動悸がしました。来日前にも何度があった為、少し休めば大丈夫でした。今回も同じだと思い、動悸を我慢しながら、邪魔にならない場所へ移動しました。数分休憩した後（以前は休憩したら大丈夫だったので）立ち上がったら、今度は吐き気がし、汗がすごく出ました。トイレに行こうと思っても身体が動かず、力を振り絞り、数歩歩き、しゃがみを繰り返しているうちに、目の前が真っ暗になりました。

意識が朦朧とする中で、「大丈夫」「顔色が悪い」と心配する声が聞こえていましたが、答える気力が残っていませんでした。私はふたりぐらいに抱えられ、どこかの椅子に座らせてもらえたようでした。店長も自分のお客さんを置いて、水を持ってきてくれました。私は話もできず、水も飲めず、椅子の手すりに寄りかかり、左腕の感覚もなくなりました。今まで感じたことのない恐怖に陥りました。

汗をかき、服も髪も全部濡れてしまい、すこし時間をおくと、心が落ち着いてきました。やっとの思いで、顔を上げると、たくさんの人

が周りにいて、心配していることに気がつき、「みなさんに心配をかけて、すみません」と言うと、安心した様子を浮かべてくれました。その後、心配してくれた店長が私にたくさんの飴を両手いっぱい渡してくれ、店を離れているのに、遠くまで送ってくれました。店長の笑顔はすごく美しかったです。そして、甘い飴とともに、私の心に暖かい光が差し込みました。

私は、10歳の時、父を癌で亡くしました。大学の入試前に、母が交通事故で、父の元へ行ってしまいました。卒業前に、仲が良かった兄嫁が腎臓病を患い、大学院生に推薦入学が決まっていたのですが、就職しました。不運ばかりが続き、「なぜ?」と何度も神様に聞きました。

今、遠く異国にて、30歳になり、考え方も変わりました。今回の事があり、私は「以前の生活で、何か見過ごしていたのか」と急に分かりました。そもそも人間が平等になっていると言うことはあり得ませんが、愛と感謝を持てば、陽射しを受けることができます。私が気がついたように、毎日あたふた道を急いでいる人達に、美しい景色があることをなおざりにしないほしいと思います。

私は、日本の景色で、春が美しいと思います。特に、桜が雨の中で揺れ動き、花びらがちり、緑になってしまいますが、一番に咲き、美しい様子が私の心に残っています。

日本で最後の年になる来年の桜を楽しみにしています。

国	籍	中国
職	種	電子機器組立て
実習実施機関		株式会社OSパートナーズ
監理団体		加西商工会議所



日本に来てよかった

チャン ティ ホア マイ
TRAN THI HOA MAI

今、私は一年間日本に住んでいます。ベトナムでは小学校高学年の算数の先生として教えていました。先生をやめてからも早、一年が経ちました。ベトナムで授業をする前にいろんな準備をしなければなりません。これは日本の仕事の中でも同じことで、仕事に対する厳しさや規則があります。まだそれほど長い期間経っていませんが、会社の方達から沢山、例えば仕事のやり方や日本での生活、を学びました。そして日本での生活が楽しくなってきました。

でも、時々家族を思い出して少し寂しくなります。父の手料理、母が言ってくれたことと妹と弟の笑顔を思い出します。でも、妹と弟の将来のため、家族のため、日本語と仕事を毎日頑張っています。

毎日の行動は、7時に起きて会社へ行く準備をします。会社へ行ったら、会社の方達とふれあい、話をしたり冗談を言い合ったり、それからいろいろな仕事を習い、とても楽しいです。特に仕事の上司が新しい仕事や機械の使い方などを熱心に教え、新しい仕事の機会を与えてくれます。社長、課長、班長、リーダー、一年が経ちましたが、いろんなことを教えてくださりありがとうございました。あと二年間、どうぞ宜しくお願いします。

現在、私の仕事は自動車用コントロールケーブルのライン検査です。検査が一番難しい仕事

だと思います。検査の要求は早く、確実に、不良品を見逃さないことです。最初は誰でも慣れないと不安で、ストレスを感じることもありましたが、だんだんと慣れてくるとおもしろい仕事です。

生活面では、一年目は2人の中国人の先輩と一緒に住んでいました。一緒に寮の掃除をしたり、料理を作ったりしました。先輩はとても親切で何事にも一生懸命です。先輩は帰国前に日本語能力試験でN1に合格しました私も先輩のように日本語を頑張ります。

そして今、私達は先輩になりました。私達の後輩も中国人です。でも私にとって、どこの国籍かどうかは関係ありません。皆友達です。だから私はいつでも仲良く過ごしています。私達と後輩6人で、運動会の行事に参加したり、それぞれの国の習慣を話したりしながら楽しんでいます。些細なもめ事も正直ありますが、言葉の意味が解釈できていないのが原因だと思います。だから私達は一緒に日本語で話をして、すぐに仲良くなります。中国人の後輩3人は私の妹のような存在です。日本語も、仕事も、生活も、ちゃんと教えてあげます。常に仲良くしながら日本での楽しみをつくり、残り2年の実習生生活を有意義なものにしていくことを約束します。

ファイト！

国	籍	ベトナム
職	種	仕上げ
実習実施機関		兵庫ケーブル株式会社
監理団体		情報ベンチャー協同組合



異郷の旅、異郷の情

宋 鑫 婕

SONG XIN JIE

光陰矢のごとく、日本に来てもう1年経ちました。全然知らない所ですが、だんだん熟知して行き、すでに生活の一部に溶け込み、2番目の故郷になりました。去年の5月はちょうどこの土地に来た時でした。知らない所に対する緊張感、新しい所に対する好奇心、そして新しい生活についての楽しみなどの複雑な気持ちでした。中国と同じ樹木、中国人と同じ顔の輸廓ですが、周りの看板や人の会話は私にもうすでに新しい国に着いたと知らせてくれました。紺碧の空と忙しい人々は私の未来がこれから始まることを気づかせました。

しかし、この三年間の旅に波が現れているような運命で、日本に来たばかりの5か月目全身に急にむくみができました。病院で検査したところ、ネフローゼ症候群と診断されました。異国で1人過しをしており、迷子の子羊のようにすぐに方向を失ってしまいました。一時には事実が受け入れられなかったです。

病院の先生のアドバイスにより、2015年10月22日入院しました。翌週、先生が一連の検査結果に基づき、治療案を確定し、正式な治療を始めました。2週間後、体のむくみは全消しました。11月30日、一番大事な検査「生検」をしました。その時とても緊張で怖がりました。出血を避けるため、検査後の24時間必ずベッドの上に横になり、動けないです。幸いなのは会社の

山崎課長、通訳の王先生と看護師は根気よく面倒を見てくれました。

12月18日やっと退院し、寮で半月休みました。入院の2か月、病気になったこそ、ホームシックが強くなりました。病院でネットが使えないため、私の携帯が使えませんでした。中国にいる心配してくれる両親と連絡できるのは、王先生が見舞りに来る時だけでした。

今の私はまだ回復期なので、薬もまだ飲み続けています。今飲んでいるステロイドの薬は副作用があるので、皮膚科と眼科も行きます。順調に回復したおかげで、みんなと一緒に仕事することができるようになりました。

この1年間、感じたことがたくさんありました。ネフローゼになったのは不幸ですが、幸いなのは日本で治療を受け、今まで頑強って来ました、そして困難に直面することも鍛えられました。感謝すべき人もたくさんいます。山崎課長、王先生、入院中日本語を教えてくれた田村さん、友達、病院の先生と看護師などに心より感謝しております。彼達は私が最も困難な時に世話をしていただき、励ましていただき、私を温めていただきました。日本の先進な医療システム、日本人の細心の世話と熱情な関心のおかげで、私は病気に戦勝しました。これらのことは私が一生忘れられず、とても感動しました。今後の仕事や生活に希望が満ちあふれています。日本で体験したことや感じたことは人生の宝物であり、2年後中国に帰っても、きっと役に立つと思います。将来、機会があれば、日中友好に全力を尽くし、日中両国の架け橋になりたいです。

国	籍	中国
職	種	ハム・ソーセージ・ベーコン製造
実習実施機関		信越丸大食品株式会社
監理団体		国際交流協同組合

佳作

友情

スギアント SUGIANTO

東洋ビジネス協同組合/
株式会社松伸

私は2014年の冬に日本へ来ました。インドネシアは暑い国ですから、初めて日本へ来たときは、こんなに寒いところで仕事ができるのかなあ…、と心配でした。インドネシアで、日本の季節や文化について勉強したので、少しは知識がありましたが、日本の冬は私が想像していた以上に寒かったです。

私の仕事は鉄筋ですが、仕事を始めたばかりの頃は、日本人の先輩は厳しかったし、仕事も難しかったし、それに本当に寒かったです。雨が降っても外で仕事するのには驚きました。

2ヶ月ぐらい経ったとき、日本人の若いアルバイトの人が入って来ました。私より6才も若いです。こんなに幼くて、体も細い人なのに、仕事ができるのかなあと思いました。私たちはだんだん仲良くなって、アパートで一緒にごはんを食べたり、おしゃべりしたりするようになりました。そして、友だちを紹介してくれるようになりました。紹介してくれた2人の友だちは最初は全然話してくれませんでした。私の発音がおかしいのかなあ。私の日本語が伝わらないのかなあと思いました。でも3回くらい遊んでから、本当によく話すようになりました。

ある日、インドネシアの料理を作ってあげたとき、日本人の友だちは「辛い？辛い？」と聞きました。私は「ちょっとだけ」と言いました。でも、インドネシア人の言う「ちょっと辛い」は日本人にとって「本当に辛い」です。友だち

は、その料理を食べた後で「何これ！何これ！」と言って顔が真っ赤になりました。インドネシア人なら、辛い物を食べても、顔が赤くなったりしませんから、私は友だちの真っ赤な顔を見て、可愛いなあと思いました。

友だちは学校が終わると、よく私のアパートへ遊びに来てくれました。殆ど毎日です。インドネシアでは、用事があるときに、友だちに会います。でも、日本では、用事がなくても一緒におしゃべりをして過ごします。

今、友だちは忙しいですから、あまり会えません。私は次に一緒に遊べる日までに、もっともっと日本語が上手になっていきたいです。そうすれば、もっといろいろな話ができると思いますから。もし、友だちに会わなかったら…私の生活はこんなに楽しくなかったかもしれません。もっと友だちと話したい。もっと友だちのことを知りたい。そんな気持ちが、勉強のモチベーションになりました。暑い国から寒い国へ来た私を、体の中から温めてくれた友だちに感謝しています。友情は大切だと心から思いました。

佳作

もっと素晴らしい自分と 会おうために

刘 婕

LIU JIE

西日本海外業務支援協同組合/
株式会社西川ビッグオーシャン

地域環境や人文の違いによって、人の心は変わっていきます。

人に勇気や元気を与えるのは、必ずしも心地のよい言葉だけではありません。自分の人生を一生懸命生きている人が大きな影響を与えることもあります。過去の失敗を悩まず、未来のことを考えすぎずに、素晴らしい明日のために自信満々で新しい今日を迎えているのです。私もそんな人々を見ると、元気が湧いてきます。

実習生はそれぞれの理由があって日本に来ました。私は海外での仕事や生活を通して自立して一人前になるために日本に来ました。来日したばかりの頃、言葉の壁や文化、習慣などの違いで、なかなか生活になじめませんでした。さらに、私の場合中国にいた時は日常生活のことをほとんど両親がやってくれていたのです、料理や洗濯などでもうまくいかないことが沢山ありました。そのため、気持ちは落ち込んで、周りに友達がいるのにいつも寂しいと感じていました。時々、故郷の町に似た道を歩くと家族を思い出し、国に帰りたい思いで泣き出しそうになることもありました。それでも自分で決めた道だからと、歯を食いしばって我慢してきました。こんな複雑な気持ちで毎日を過ごしていたある日、一緒に来た実習生たちの必死で頑張っている姿に気が付きました。もちろんみんな家族に会いたい気持ちは同じですが、毎日元気に仕事

をこなし帰宅後は日本語の勉強に励んでいます。日常生活でも自立しており、テキパキと料理や洗濯をこなします。そんな友人の姿をみて、なぜ自分だけこんな落ち込んでいたのかと自分を責めました。そして、私も一生懸命頑張ろうと決心しました。

それから、私は焦らずに一歩一歩できることから前に進んでいきました。まず、日常生活を改善するため、毎食自分で料理を作り、部屋の整理整頓を心がけました。そうすると1日の始まりをすがすがしい気分を迎えることができるようになりました。勉強に関しては、時間を無駄にしないよう仕事の時は積極的に会社の人と日本語で話し、寮では教科書で文法の勉強を続けました。次第に聞き取りや会話力が向上してきました。日本語能力試験にも積極的に参加し、今年の7月にはN2級を受験しようと決心しました。職場では日本の技術を学びながら、不良品を出さないように細心の注意を払いながら働いています。毎日仕事と勉強が忙しくてぐったりすることもありますが、中国では「圧力は動力になる」ということわざがあります。そんな時は「このチャンスは今しかないのだ！」と、自分に言い聞かせています。

日本での3年の実習生活は私にとって大変貴重な財産です。このチャンスに私は必ず一人前の大人として成長し、強くなれると信じています。残りの在留期間では、もっともっと素晴らしい自分と出会えるよう努力していきます。

佳作

日本の桜

ファム ティ ゴアン

PHAM THI NGOAN

えひめEX協同組合/
有限会社伊藤被服

実習生として日本へ行くと決めた時から、言葉とともに日本の文化についても勉強しました。その中で桜の花が私の目を引きました。慣れない外国での生活、毎日勉強することはたくさんありました。寂しい日もありましたが、いつか咲く桜を楽しみに頑張っていました。

一年生の時にあった事をよく思い出します3月の末頃、近くの川にある大きな木に小さなつぼみがたくさんついている事に気がつきました。その時は何のつぼみか分かりませんでした。ある日、こんな話がありました。

「お花見をします。この日はお弁当を用意しますので、お昼ご飯は用意しなくていいです。」お花見の意味は分かりませんでした。その日が近付くと、つぼみが少しずつ花開いてきました。よく見るとそれは桜の花でした。私は、他にも桜の本がないかさがしたところ、川のまわりにあるかれていると思っていた木がほとんど桜の木でした。ここにある木全部に花が咲くことをそうぞうするだけでうれしくなりました。

4月初旬。ついに桜がまんかいになり、その日がやってきました。お花見とは、桜の木の下で皆で楽しくお弁当を食べる事だったのです。日本では、お友達や家族と花を見ながらご飯を食べるふうしゅうをお花見と言うそうです。いつもは話せない人と話せたり、写真をたくさんとりました。何より桜の下で食べるお弁当はおいしくて、楽しくてすばらしい時間でした。

私の会社には、日本人・中国人・ベトナム人がいます。お花見では国も人しゅもかんけいなく皆がおなじで、楽しい時間をすごしました。それはとてもすてきでいいことです。やさしい人たちにかこまれてじっしゅうができていいる今の会社にとってもかんしゃしています。さいしょはとてもむずかしくて、毎日が不安でいっぱいでした。それでも、皆さんがていねいにおしえてくれたおかげですこしずつおぼえて、約2年たった今では、出来ることがたくさんふえてとてもやりがいをかんじています。これからもじっしゅう・日本語の勉強と頑張ります。そして、ベトナムにもお花見というすてきな日本の文化とたくさんの楽しい思い出を持って帰り、新たなもくひょうへむかって頑張っていきたいです。

佳作

日本の生活－初期の頃

ホアン ティ ニュー イ
HOANG THI NHU Y

東西商工協同組合／
株式会社フリジポート

私はホアンティニューイと申します。ベトナムから来た女子です。今年18歳です。これから、私のスピーチを発表いたします。

2016年2月20日、初めて日本の福岡空港に足を踏み入れました。空港の外、雨が落下しました。日本についての私の最初の気持ちは寒いです。でも、大丈夫です。肌寒い夫気が大好きですから。福岡空港にいた時、協同組合の人とTHUY先生と酒井先生に会いました。以来、皆さんと一緒に大分県へ行きました。2時間ぐらいかかりました。大分県は私の中にとっても綺麗な街です。あなたはこの街のどこにでも花を見ることができます。花はどこにでもあります。殆ど、皆さんは家の前に花を植えます。だから、街はより綺麗により新鮮な空気になります。大分県にいた時、いろいろな所へ行って、いろいろなことを勉強しました。先生から学んだすべてのものは非常にやりがあります。儀式、法律を学び、そしてより。いろいろな所を見物に連れていってもらいました。一番好きな所は別府市の海です。私たちは一緒に楽しく遊ぶと写真を撮たくさんとりました。すべてが非常に興味深いでした。大分県での最後の日、私たちは先生と一緒に歌を謡うと躍りました。たくさんわらった。バスに乗って熊本へ行った時、誰もが泣きました。私も。本当に悲しかったです。今日まで熊本で1ヶ月にいました。ここの生活に慣れました。毎日、フリジポートの会社ではたらい

ています。仕事の中にこまったことはありません。でも、日本語があまり上手ではありませんから、他の人と日本語で話す時、時々あまり分かりませんでした。先だって二つの大きな地震がありました。初めてですから、少し心配しました。しかし、それに使用されていました。会社の人と近所の人から手伝ってもらいました。本当にどもありがとうございます。将来はここに3年間ぐらいます。たぶん、困ったことが沢山あります。だから、ぜひ頑張らなければならないと思います。私の目標は3年ご国へ帰ったら、上手な通訳になることができます。それで、日本語を沢山勉強しなければなりません。通訳になりたい、通訳はいろいろな所へ行って、もっとたくさん学びますから。大好きです。あなたの目標はどうですか。私の目標と同じですか。たぶん同じじゃないね。誰もが自分自身の考えを持っていますから。私のスピーチはここまでおわりました。どもありがとうございます。

佳作

志の強さ

ブイ ティ ガー ゲット
BUI THI NGA NGUYET

地域環境福祉事業協同組合/
株式会社シーエス工業

歩いている時、私は子供が木に登り、枝に引っ掛かっているボールを一生懸命取っている姿を見ました。父親がいたのですが、応援しかしませんでした。頑張った結果、子供達はボールが取れました。父親はとても嬉しくて、膝の上に子供を抱いて「なんでボールが取れたのか分かるか」と聞きました。子供は「私が頑張ったから」と答えました。「うん、山田君は志を持っていたからね。本当にやりたいことがあったら志を持って諦めなければきっと出来る」。その時父親が言った言葉を聞いて、私は高校の体育の先生の決して忘れない教訓をふと思い出しました。

その頃、私の体力は弱くて体育が好きではありませんでした。いつもクラスメートより走るのが遅かったのです。そして、その学年の体育試験の内容は五百メートルマラソンでした。不合格になるのが怖いから、私は一生懸命練習をしました。授業中も練習をしていて、足が痛くなってきて、挫けそうになったりした時はいつも先生が励ましてくれました。そのお陰で頑張れました。そして、試験当日になりました。内容は五百メートルマラソンですが足が痛くなり、疲れたので四百メートルで諦めてしまいました。私は悔しくて自然に涙が出ました。「先生、私は失敗しちゃった。」先生はがっかりした顔で私を見て「うん、そう失敗だよ」「失敗したのは五百メートル走れなかった事ではなく自分

の志を諦めた事だ」。先生がその言葉を言った時、私は気づきました。

その日から毎朝、私はマラソンの練習をするため早く起きました。最初は三百メートルを走れるようになるまで練習して少しずつ走る距離を延ばしていき、ついに五百メートル走れる様になりました。日々の練習の積み重ねのお陰で私の足は強くなっていたことを実感して、私は嬉しくて五百メートルを走り切れるという自信を持てるようになりました。そして、また試験の日が来ました。私は学年のなかで一番早く走れる様になりました。先生は嬉しそうに私をほめてくれました。

その時から私は頑張って諦めなければ何でも出来ると信じています。現時点では私は日本で働いていますが、以前は沢山困難な事がありました。習慣も日本語もあまり分らなくて、仕事や生活にも慣れなかったのです。それに仕事で半田付けをする時に目が痛くなるのでとても大変で元気が無くなっている時、ふと頭の中で先生の顔と言葉が浮かんできたお陰で頑張る気力が戻ってきました。私の周りの人々が親切だから益々楽しくなってきました。先生には本当に感謝していて、先生に会う機会があれば、私は先生に「ありがとうございます」と言いたいです。

ところで私は人生で困難に直面している人に伝えた事があります。困難な事があって迎も辛くて諦めそうになっても最後まで志を持って立ち上がれば何でも出来ます。本当の失敗は諦めて、志を失ってしまうことです。

佳作

人生と植物

テュ ザー ウィン

THU ZAR WIN

関西経友会事業協同組合/
よっちゃん農園

私は農業を研修する為、2014年に実習生として日本に来ました。ミャンマーは農業国で、農業生産は主でした。全国的には森林や農業率は半分以上を占めています。でも、技術不足が原因で私の国の発展は遅れつつです。そう言うミャンマーのようなアジアの発展途上国に対して、日本の技能実習制度は私の為、何よりもありがたい事でした。

私は来日して、実際に農業の職場で体験した時、農家の人々は多くの汗を流し、苦勞して作ってくれた姿にとっても感動しました。技術力はもちろん、自分の体力と努力も不可欠だと分かりました。私の農業場は少人数で作業をします。寒い時も暑い時も野菜を切ったり、綺麗にして図ったり、市場に出すため準備をしたりします。時々植えている野菜を水巻いたりも手伝います。今までは野菜を買う人でしたが、今は自分で育て、売れる段階まで準備して、買ってくれるお客さんが喜んで新鮮な野菜を食べられるようにする人でした。

作業をしている時にいつも社長が教えてくれた言葉があります。畑に種を巻いただけでは、植物は育ちません。自分の子供のように毎日ケアして、大きくなるのを楽しみの心で育つもんだ、そういう気持ちを常に感じて野菜を育ててください。新鮮でおいしい野菜ができるはずだよ、という言葉でした。私は決してその言葉を忘れません。

もう一つは技術能力でした。なぜ、日本の野菜は甘くておいしいのだろうと、社長に野菜の作り方や種の種類、季節による育ち方も教えてもらいました。農業の仕事は大変です。でも、私は毎日楽しいです。私が作った野菜が元気で大きくなった姿が私の心を大きな力になります。それは日本で学んだ農業の技術及び農業家の心でした。

あと一年ちょっとで私は帰国することになります。時間が立つのは早いです。私は帰国してもミャンマーで農業の仕事が続けようと思っています。日本のようなおいしい野菜を作って、日本で学んだことを私の村にいる人達にシェアしたいです。技能実習生制度の目的を叶えさせる人になりたいです。もし、もう一度日本に戻る事ができれば、日本ミャンマーの架け橋になろうと心の中で願っています。

佳作

歩む道

崔 迎 賢

CUI YINGXIAN

群馬自動車部品製造協同組合/
株式会社ミツバ

赴日研修の機会に恵まれて、私たちは自国の家族と友人の期待をうけて日本で三年間の実習生活が始まりました。勇気を出して決意した上で、私たちは一人ひとりの心の中で自分の新しい夢や理想の種を蒔き始めました。初心を忘れず、限られた三年間を意味のある成長道路のすてきな経験になるように頑張りたい人達だと思っています。この中には、自分の夢を叶えるために走り出したい人達と、子供や家族のために働こうと思っている人もいます。このように重要な一歩を踏み出しました。私はこの三年間を三つの道に例えて個人的な感想をみなさんに伝えたいと思います。

まず一年目は、生活習慣・環境に慣れ仕事を上手に出来るように仕事の合間でやりたいことを習う道だと思っています。三月に入社してから自国の実習生の先輩と職場の日本人に教わりながら、生活も仕事も早く慣れてきました。お祭り参加で日本の食文化もわかるようになりました。また、会社の周りの桜を見て本当に綺麗で感動しました。そして、スーパーにたくさん品物が目に留まった時にこれは本当に心を使って用意した素敵な品物だと思いました。仕事や生活に慣れた上で、休み時間に「日本語を勉強したい、料理をもっと上手になりたいといろいろと頭の中に浮かんできます。」そこで自分の明確な目標を立て力をいれて頑張る一年です。

二年目は、一生懸命仕事をしながら自分の理

想に精力をかけて初心を忘れず守る道だと思っています。いつも自分の仕事と生活はもう十分に慣れていることを家族に話すると家族が安心してくれます。この頃で「家族に会いたいなあ。」それから「今の生活は本当に自分が過ごしたい生活なのかなあ」と思った場合は自分自身の考え方や物事の見方を変えてみると、その気持ちが変わり頑張りが続くことは本当に大切なことだと分かるようになります。自分が選んだ道は張り切って最後まですべきだと反省して友達と助け合って歩きましょう。私の会社では年に一回旅行に連れて行ってもらえます。一年目はディズニーシー、二年目はディズニーランドに行きました。本当に楽しかったです。

時間は止まることなくずっと流れるものですね。友達の中には料理がすごく上手になった人も家族はずっと家で待っている人も自分の楽しみや幸せを味わえています。日本語を勉強したい人も実践しています。最後の一年は感謝の気持ちと愛情をもって家族の期待に応えることが進む道だと思っています。

これまでの二年間、会社からいろいろと優しく教えてもらい快適な仕事と生活ができるように根気よく導いてもらって本当にありがとうございます。これからも仕事をして、日本語が話せる環境で勉強したいと思います。将来の自分は必ず今努力している自分に「ありがとう」と言いたいと思います。さて、万全な状態で立派な大人になれるようにずっと一歩一歩しっかり歩みましょう。

佳作

私の眼の中の日本

肖 蓬 龙

XIAO PENGLONG

静岡県経友会事業協同組合／
有限会社葛山製作所

時間のたつのは本当に早いです。あっという間に私が日本に来てもうじき3年になります。夢のようです。

思い出せば初めて日本語に触れた時は、たくさんの漢字が中国と同じで、面白くてどんどん引き寄せられました。でもその後、やはり外国語です、難しいとわかって、日本人は勉強好きな民族だなあ・・・と感服しないわけにはいきませんでした。

日本語は私にとっては外来文化であり、そして独特の雰囲気があります。ひらがなは柔らかくて、日本女性のやさしい美しさのよう。カタカナはきちんとしていて、日本男性の真面目で厳しいのを感じます。

日本と言えば私たちは桜や富士山を思います。日本に来て私が初めて満開の桜を見たときは、本当に心が震えるようでした。咲いた花が一枚一枚と落ちていくのはなんと美しいのでしょう。春風が花を目覚めさせるのか、花が春を連れてくるのか。

道路や川原ではあっちもこっちも、誇らしそうに桜が咲いていました。そして咲いた桜はあと落ちるだけです。落ちた桜はまるでじゅうたんで敷いたように、遠くの道までずっと続いていました。踏む時ごめんなさいと思いました。川にもたくさんの花が落ちて、遠くに流されて行きました。

富士山も日本の象徴の一つです。日本に来る

前には、教科書やインターネットの写真で見ませんでした。日本で私の住む裾野市は、富士山がきれいに見える所です。本物の富士山が青い空に白い雪をかぶって見えた時、そして桜の花と一緒に見えた時、本当に一生忘れられないと思うほど美しかったです。

夢のような時間は過ぎてきて、日本に2年以上滞在の間、私は美しい景色の他、たくさんの知識も得ました。

日本は小さくて資源の少ない国です。でも、日本人はゴミをきちんと分別したり再利用したり、古い資源の活用が上手です。小さい子供から白髪のお年寄りまでみんなが、自分から進んでまわりの環境を守り、厳格にゴミの分別をすることをするのを見ました。そして私もだんだん、環境を守り資源を大切にすることを学びました。人と人とのこのようなかわりには私に、大和民族の「和」という文字の意味を教えてくださいました。

日本人はどんなことに会っても、みんなは先に「すみません」というのが習慣です。このことから、知らないうちにたくさん問題を解決しているようです。日本人の我慢強く謙遜の態度、自分が悪いと気づいたらすぐに反省する態度、これで人と人との関係が、深刻にならないです。このような場面にたくさん出会って、知らず知らず私を大きく成長させてくれました。

これが私の眼の中の日本です。近寄って初めて、その美しさに気づかされました。日本に来て本当によかったです。

佳作

娘への手紙

石 鑫 靚

SHI XINLIANG

北陸対外事業協同組合/
エーディーエンジニアリング有限会社

私は、中国から日本に来て一年が過ぎました。私が、娘「芽衣」と離れての生活でこんなに長いのは、初めてです。日本に来てからあなたを思う気持ちが強くなっています。あなたに伝えたい事があります。日本は、以前私が想像していたのと違います。日本人は、素質が高く、とてもいいです。日本では車が非常に多いですが、クラクションを鳴らしている車が、あまりありません。また、歩行者が先に歩いて、車があとから行きます。日本人は、いつも胸に抱いているのは、他人の心です。それに環境保護を重視します。ごみをすてる時、必ず分類します。日本人はとても親切です。以前、私が外出時、突然雨が降ってきました。傘を持っていません。そこにやさしいお婆さんが私に傘を貸してくれました。中国では、そんな事はあまりありません。中国人の思想は、知らない人のことは自分と関係ないと思っています。

最近、家に電話をかけた時、おばあさんから、あなたの成績が悪くなったと聞きました。授業の時は、先生の話をまじめに聞いて欲しいです。思い感じる心を持って欲しいです。今、私はあなたのそばにいません。あなたの成長は見えません。私は自分の努力を通してあなたにいい成長環境をあげます。私が今の会社で仕事する前、勉強している時見た日本人の子供は、とても一人前です。自分の食事は自分で持って行きます。自分の食器は自分で洗います。自分の部

屋は自分で掃除します。あなたは、もう7歳になりました。でも食事は自分でできません。そんな事が中国では多いです。両親は子供を可愛がり過ぎます。子供の成長に悪いと思います。私はあなたに健やかで幸福に成長して欲しいです。私はあなたがいるからこそ、困難に直面する勇気があります。私はあなたの手本になりたいです。私は、日本でしっかり仕事をするので、あなたは、家でしっかり勉強して欲しいです。

私の夢は、あなたを連れて日本の桜を見ておいしいものを食べたいです。私は、この夢のために頑張ります。たとえどんな困難に会っても、あなたは、私の原動力です。あと二年早く過ぎたいです。一日でも早くあなたに会いたいです。

佳作

発展の道

エディ プリヤント

EDY PRIYANTO

東洋ビジネス協同組合/
有限会社高山組

日本は世界で唯一、核爆弾の被害にあった国です。そして、物凄い早さで再建した国だと思います。そこにどんな苦労や努力があったか、私は知らなければならないと思っています。

子どもの頃、戦争についての映画をみたことがあります。それはお兄さんと妹の物語でした。ある日、爆弾が原因でお母さんが亡くなってしまいました。住んでいた町には、人も物も何もなくなってしまったので、遠くに住んでいる叔母さんの家に行くことにしました。ところが叔母さんは厳しい人で、2人はとても辛い経験をしました。それで、叔母さんの家を出て、2人だけで防空壕で生活を始めました。しかし、食べ物がなかったので毎日畑から芋を盗まなければならない生活が続きました。だんだん体が弱って、ついに妹は病気になって、亡くなってしまいました。お兄さんが絶望して、妹の骨を持ちながら座っているところでこの映画は終わりました。

もし私がお兄さんだったら…私にはできないと思いました。本当に大変な状況なのに、まだ小さい兄妹を助けられる人がいなかったのはとても悲しいことです。私はショックを受けました。

この映画は1945年の出来事です。実は、インドネシアの独立も1945年です。独立の後で、インドネシアの生活はだんだん良くなりました。しかし、日本とインドネシアの発展には差があ

ると思います。今でもインドネシアはいろいろな物を外国から輸入していますが、日本は色々な機械を外国へ輸出しています。あの悲しい物語からまだ71年です。何が日本をこんなに早く発展させたのか知らなければならないと思いました。それで、私は日本のルールや仕事のやり方や生活にとっても興味を持ちました。インドネシアにもルールがありますが、守っている人は少ないです。インドネシアの発展の為にも、日本のルールや、日本人の考え方を学ばなければならないでしょう。

しかし、私は自分の国が大好きです。インドネシアは独立の前に、何年も戦争が続いて、生活は本当に大変でした。武器が少なく、軍人たちは竹で攻撃していたのに、アメリカや日本やオランダはたくさん爆弾や武器を持っていました。それでも諦めないで頑張ったおかげで独立するところが出来ました。これはインドネシア人の誇りです。

爆弾が落とされて、物が壊れて、人が亡くなくても日本は復讐しませんでした。そして、何が必要か、何が優先か、それを早く見極めることができたことと、日本人の勤勉な心が、こんなに早く国を再建させたんだと思います。

私は愛する私の国の発展の為に、日本からたくさんのお話を学びたいと思っています。

佳作

ルール

ヘンドリヤサリ

HENDRIYASARI

東洋ビジネス協同組合/
マルイチ長谷川漁業部

2016年2月22日、私は日本へ来ました。はな語学院で日本語と日本の生活について勉強しました。日本にはたくさんルールがあります。私はよく考えるようになりました。どうしてこんなにたくさんルールがありますか。ふくざつすぎます。その時、先生が「日本はルールがたくさんある国です。そしてルールについてきびしいです。ですから日本は安全な国になりました。」と言いました。

初めて日本のスーパーへ行った時、道がきれいだなあと思いました。道にそって、物が整理整頓してあるし、ぜんぶきちんとしてあるからです。そして、車を運転する人たちは、みんなルールを守っています。車のルールについて、先生は「シートベルトをしてください。もし、ルールを守らなければ、日本では運転する人のせきになくなります。運転する人がばっきを払わなければなりません。日本のけいさつはきびしいですよ。」と言いました。

自転車に乗る時も同じです。たくさんルールがあります。私の友だちは、会社へ行く時に、イヤフォンで音楽を聞きながら自転車に乗って、けいさつに注意された」と言っていました。「危ないですから、音楽を聞きながら運転しないでください。」と言われたそうです。私は、事故にならないように、みんながルールを守らなければならぬし、私たちの命はひとつだけです。自分で守らなければならぬと思いま

した。

そして、初めて日本の公園へ行った時もびっくりしました。この公園はちょっとせまかったのですが、きれいでした。ごみがないんです。たくさんの方が遊んでいます。ごみ箱は少ししかありません。でも、この公園はきれいでした。私は公園でおかしを食べましたがごみは寮へ持って、捨てました。

いろいろなルールについて書きましたが、実際はルールを守るだけではだめだと思います。日本人は自分のために、自分でよく考えて、そして、どんなことでも本気でやります。きびしいですが、いいことだと思います。だから日本はきれいで、安全な国になったんだとわかりました。私の国と日本は本当に違います。私は3年間、日本でいっしょうけんめい勉強して、仕事して、そしていろいろなルールを守ります。

3年後、私は日本のルールを国へ持って帰って、私の国でもルールを本気で守って、そして家族と子どもにも教えます。将来、私の国をもっときれいで安全な国にすることが楽しみです。将来のために、私は3年間日本で頑張ります。

佳作

実習生の体験

ファム ヴァン ソアン

PHAM VAN SOAN

関西経友会事業協同組合／
丸一株式会社

私は日本に来てあつという間に二年になりました。今まで楽しいことも、苦しいことも沢山思出になりました。私はとって3年間日本での技能実習を言葉にすれば「成功」一步という言葉に置き換えられます。この言葉はベトナム人には新年の挨拶やお祝いの時に使います。日本に来るまでになんの印象もありませんでしたが、今は様々いい思い出があります。

一ヶ月京北研修センターで日本語の授業だけでなく、地方の方々との文化交流の機会を通じて、親切な日本の人は初めて日本の印象になりました。プラスチック成形の会社に配属されました。ある日ことでした同じ職場のおばさんが私に言いました。「ソアンさんベトナムで大卒したの?」「いいえ。」と答えた瞬間。涙が出そうになりました。おばさんはソアンさんは優秀ですと教えてくださいました。うれしいと思いがら「ありがとうございます。」と答えました。本当は短大に進学したかったが家庭が貧しくて、両親が苦勞して、私達を育ててくれる姿を思い出したからです。貧しい家庭で大学に行く事を諦めました。そこまで「大学に行かないと出世できない」と思いましたからです。それからおばさんは「ベトナムの事を知りたいから、これからベトナム語を教えてくださいませんか?」と言いました。喜んで「いいですよ。」と言いました。それからおばさんと自然に仲良くなりました。日本語まだダメなのでベトナム語の文法を説明出

来ない時もありますが伝えるまでにおばさんが真剣に聞いてくれたおかげで、自信を持って日本語の勉強意欲を高められます。仕事でよくミスがある時おばさんは私分かるまで親切に教えてくださいました。「ソアンさんは頑張っているから、きっと出来るよ」とよく言っていました。おばさんとの会話によって、仕事と勉強は上手く出来るようになりました。ミスも少なくなりました。私は日本語N3級を合格することも出来ました。とてもうれしかった。合格結果初めて知らせた人はおばさんです。「おめでとうよく頑張ったわ」と笑顔でおばさんが言っていました。自分合格のようによろこんでくれました。

「成功」という言葉をめざし、3年間日本で技能実習生として私にとって大学卒業に等しい価値のある卒業の日を迎えたいと思っています。実習生のチャンスは二度とない。実習生になるのは人生で一度だけ。だからこそ、大事にして楽しく体験しています。自分の成長を感じました。残りやく2年間日本での実習のチャンスを大事にして、日本とベトナムとの良い関係おかげで生きがいのある仕事を見つけました。日本の先進技術を身につけ立派な製品を作り、そして、その製品を世界の人々に使ってその喜びと感動をみんなで分け合うのが夢です。今にはその夢を一步叶えていると思います。

佳作

日本の景色を鑑賞します

张 帅

ZHANG SHUAI

ジェー・オー・ピー協同組合/
山形新興株式会社

日本に来てから半年過ぎました。この半年の間は早く感じました。

日本はとてもきれいです。日本の環境はいいです、空気もしんせんです。私はとても有名の所が好きです。例えば北海道と富士山です。一番北海道が好きです。

北海道は日本の最北に位置する地域です。

夏になると北海道を代表する富良野の「ラベンダー」の花が咲き、大雪山連峰などの山々には、「コマクサ」を始めとする高山植物の花達の群落がお花畑を形成して見る者の目を楽しませてくれます。

秋にはまだ早い9月には大雪山連峰などの山々には、紅葉の便りが届き赤・黄・緑と山の木々は染まり、紅葉前線の南下が始まります。

冬で11月北海道のいたるところで初雪が降ります。12月冬までとなり北海道は雪に覆われます。

夏は、富士山が開山する唯一の季節である。開山とは、登山が許可されるということである。遠くから眺める富士山と、登山しながら山の中で見る富士山はまったく違います。富士五湖付近から湖を隔てて眺めると、富士山は雲や霧をまとい、青空と青い湖水の間に稜線が優雅に隆起して延びており、まるで和服のすそが大地に広がっているようで、落ち着いて威厳があります、非常に美しいです、登り始めると、一合目から五合目までは木々がうっそうとした森林

で、足元は生態環境を守るために昔のままを保持した歩きにくい山道になっている。五合目から山頂の剣が峰までは火山岩でできた荒涼とした山道で登りにくいし、標高が上がるにつれて酸素が希薄になるので、体力がもたずに高山病になる人も少なくない。そのため日本では、「富士山は遠くから眺める存在で登る山ではない」とよく言われている。だが、古典文学に繰り返し登場する山として、富士山は昔から日本の精神の象徴の1つであります。日本人の心の聖地である。毎年山開きの季節になると、たくさんの人が登山のために訪れ、年齢層も黄色い帽子をかぶった小学生から白髪のお年寄りまでさまざま。日本人にとっては、頂上まで行っても行かなくても、富士山に登ることによって大きな精神力と勇気を与えられるのかもしれない。

日本を観光するなら、一度は富士山を見るべきであります。富士山は高くても傾斜は緩やかで、優雅で端正な美しさがあります、まるで見聞が豊かで心がしっかりした、優しく明るい女性のようにあります。富士山のふもとまで行ってその美しさを見た後、たとえ途中までであっても登ってみれば、富士山の持つ力と強さが感じられ、日本文化や日本の精神に対する理解がきっとさらに深まるに違いありません。

佳作

私の研修生活

成 飛

CHENG FEI

スキルウェイ協同組合/
名岐合成株式会社

2014年11月8日、私は日本の名古屋にきました。そこから三年間の研修生活が始まりました。私の研修生活は主に仕事と勉強です。

職場では誰かも私たちを暖かく見守り、助けてくれました。みなさんのおかげで私たちはいち早く作業内容を把握し、周りの環境になじめるようになりました。日本人と一緒に仕事をさせていただいています。日本人の仕事に対しての勤勉さと質へのこだわりには深く感銘を受けてしまいました。私は以前の仕事をすろそかにする習慣を変えて仕事に一生懸命に頑張る姿勢になり規則正しくなりました。

特に工場長はいつも私たちの日常生活に気を配ってくれて、寮の電気が壊れると工場長はいつもすぐがけつけて直してくれました。ゴールデンウィークの時、工場長は特別に名古屋水族館を案内してくれました。水族館でたくさんの面白い海洋生物を見学し、イルカの素晴らしいパフォーマンスも観ました。とても楽しかったです。

仕事以外も毎週土日休みがあります。休みの日、私はほとんどの時間を日本語の勉強に使っています。日本の文化を理解し日本人の生活に溶け込むには彼らの言葉をマスターするのが必須条件だと思います。だから私は毎週一宮市立図書館の自習室で日本語を勉強しています。図書館には様々な日本の書籍があり、たまに何冊か簡単な小説を借りて読んでいます。おかげ

で、日本語能力が上がったほか、精神的にもリラックスできました。また毎週の週末には「青年之家」へ行きます。ここは外国人に日本語を教えてくれる公益学校です。ここで先生と一緒に会話の練習して、生活上のおもしろい経験談も話し合っています。また、学校は定期的に日本の文化体験イベントを開催しています。例えば花見、茶道、団子作りなどの体験ができます。日本のたくさんの伝統文化に触れ合い、日本人の日常生活に対してある程度、理解することができました。おかげで、私が日本での研修生活に溶け込むことに役に立っています。

日本語の勉強以外にも、私は旅行が大好きです。毎年会社は三回の大型連休があり、私はいつも旅行に出掛けます。日本のたくさんの美しい景色を楽しむことができるしそれぞれ都市の違う文化に触れ合うことができました。今まで富士山、神戸、東京などへ行きました。旅行に行く度、日本に対してもっと幅広く接触することができ、私の視野も広がりました。

今私は日本に来てもう一年半になりました。仕事と勉強と旅行を通じて私は日本の多くのところを学びました。研修生活から得られた経験は私をこれからの人生の道でもっと強く歩めるように自信を持たらせてくれます。

今回の日本の研修生活はきっと私の人生の一つの財産になることを確信します。

佳作

日本人の寛容と灯りの美しさ

グエン ヴァン ロイ

NGUYEN VAN LOI

共進情報事業協同組合/
株式会社大一製作所

私はたくさんの若者と同じように、将来のため、実習生として日本に来ました。日本に来てから、私は同年代の日本人の皆様にと比べると、自分自身がまだ幼いと感じました。生活のルールから仕事のルールまで、私の認識は甘すぎました。

日本に来たばかりなのに私は、酒匂まみれの体で、会社に訪問しました。そして、入社間もなく、私は仕事中に居眠りをしました。たくさん重大危険な事を起こしてしまいました。会長、社長に怒りをさせました。普通だったら、私は母国に帰らされてしまうかもしれませんでした。けれども、会長と社長は私に克服するチャンスを与えてくれました。今、毎日会社の皆さんは、私に仕事も日本語も丁寧にたくさん教えてくれました。日本人は寛容だと感じました。私はこの機会を逃してはいけません。頑張って勉強し成長していきたいです。

私の会社は、大阪でたくさん機械加工会社の中の一つです。私の仕事は建物や施設などの照明器具の部品を生産するところです。短い間しか仕事していないけれども、とても面白い事を発見しました。それは電球がただ照るものではなく、私たちが作った部品を付け加えて、壁や天井、庭、公園、町などの美しさの強調と飾り物になりました。

仕事を通して、私はたくさんの事を勉強になりました。それは、日本人の働き方です。日本

人は、自分の利益を増やすばかりではなく、未来の環境と社会への配慮も計算します。例えば、原材料の使い方について、鉄で作られた製品は屋外に使ってはいけません。なぜならば、天候の晴雨でサビになり、製品安全性と寿命が短くなります。それに、その電球がサビになると壁や天井ごとが汚くなり、美観にも影響及ぼします。更に、風に飛ばされたサビが空気の埃になります。すごく細かい事だと思ってしまうかもしれません。けれども、日本人は何かを作る前に後の事と周りの事を配慮しながらするので、なぜこんなにきれいな空気を維持する事ができるかを分かるようになりました。そして、私の会社ではごみの分別などの5S活動をしています。これらは小さい事だけれども、私はこのようなことから身に付けていきたいと思います。

3年後、ベトナムに帰ってから、日本で勉強と実習した事を活用して、私は小さい工場を開き、そこで、照明関係のフレームや部品を作って、母国をより美しくさせていきたいと思います。そして、仕事を通して現地のベトナム人に日本人の考え方や働き方などを伝えてあげたいです。

佳作

メッセージ

朱 柳 美

ZHU LIUMEI

公益財団法人日中技能者交流センター／
株式会社エヌビーシー

メッセージを伝える手段のひとつとして色があります。緑、黄、赤この三色は目の前に現れる時に、第一に何を思い出すでしょう。そうです、それは交通信号です。しかし、仕事にも使われているとは想像もしていませんでした。

入社して、工場現場に入る時に、厚くて重い鉄門を開けて、目に入るのは頭のところに赤帽子のような柱が半空中に立っています。全部赤、黄、緑三色なので、運転場に来たような感じで、緊張する雰囲気が盛り上がって来ました。そして、たくさんのところに大きな「異常処置時に止める、呼ぶ、待つ」の看板が掛っています。上司に説明をしてもらっても実際に起った時にどうするか、はっきり理解できませんでした。

ある日のこと、作業の途中で機械のランプは緑色から赤色になりましたが、機械は正常に動いていましたので、大丈夫だと思って、赤点灯を無視してやり続けていましたが、そこから出て来た製品には不良がありました。頭が真っ白になって、慌ててどうするか、分からなくなりました。この時、準直が状況に気づき、止める！と言言って、班長を呼んできました。不良を見て、普段はやさしくてニコニコしている班長でしたが、初めてこんな班長のすごきびしい顔を見ました。機械は動いているからやるのはあたり前のことと思いながら、なぜそんなにおどろくことが必要かと思いました。班長は

機械の状況をチェックしながら、他の技術者を呼んで来て一緒に異常を検討してから、機械をバラバラにして40分ほどかかって直しました。時間が経ってやっと自分の問題のきびしさを認識することが出来ました。班長から「外で見ると問題ないですが、ランプの色が変わったら、機械は私達に身中のどこかに病気があるよ、と不具合のメッセージを伝えていますよ、直さないと、もっと大きいトラブルが起りますから、何があっても勝手にやっちはいけませんよ、異常処置をしてください」と言われました。

人も機械も一緒にいくらか小さくて簡単なことでも、ほっといて無視すると、時の流れに従って、いつのまにか大きく複雑になりますから、始めのうちに早めに止めましょう。

勝つことは往往にして能力ではなく観念です。理解してないことを理解し始めたとき、人は上達になり、これからも自分のミスを向き合って素直に行きたいと思います。

佳作

もっともっと

刘 丽

LIU LI

ELC事業協同組合/
旭電器工業株式会社

日本に来て二年になりました。今の仕事は自動車メーカーの車盗難警報システムを生産しています。日本に来たばかりの時、国内の親戚や友達から、日本の仕事はどうか？と聞かれました。あの時、自分は誇らしげに日本の自動車の部品を製造してますと答えました。皆からすごいと言われました。

しかし、この仕事をやり始めた時に自分のミスで不良を出してしまいました。とても辛かったです。太田課長は、すぐに私と面談し、これはなぜダメなのか理由を説明してくれました。初日からこんなミスをしてしまって、今後どうすればいいのか、とても悩みました。

でも今まで頑張ってきたのに、このまま諦めるのはいやだ。もっと気を引き締めて頑張ろうと思いました。

私のはんだの先生は薮田職長です。とても厳しいです。薮田職長にいろいろ教わって、だんだん仕事が出来るようになってきました。

3ヶ月後にまた自分の不注意でミスをしてしまいました。私のはんだは完全に溶解せず、量も少なかったです。薮田職長からはんだのぬれ、流れの確認不足という不注意で不良が発生したと言われました。この部品不良を出荷する事により、大きなクレームなど発生させる恐れがあります。自分のミス一つで人に迷惑をかけるなんて本当に考えられませんでした。この事を意識し、今後はもっと注意します。薮田職長

ははんだの仕事を始めてもう三十年になります。今まで自分がやってきたことがとても役に立っていると言っていました。私自身できないことはまだまだたくさんあります。本当にもっともっと頑張る必要があると思いました。

いよいよ日本での実習生活も最後の年を迎えました。今まで日本でたくさんの方から仕事、生活面で助けてもらいました。心から感謝しています。残りの時間をみんなと頑張りたい。安全、品質第一の意識を持って、残り一年、一生懸命仕事に取り組み、同期の実習生とたくさんの素敵な思い出をつくっていきたいと思います。もっともっと日本で成長していきます。

佳作

一人ぼっち

ファジャリア セティアワン

FAJARIA SETIAWAN

公益社団法人日本・インドネシア経済協力事業協会／
泉工業株式会社

2015年3月3日私は日本にきました。はじめて冬を感じました。本当に寒かったです。夜はなかなか寝られませんでした。日本は春ですが私には冬でした。日本に来た時あまり日本食を食べられませんでしたが今は何んでも食べられるようになりました。味もちがうし、口にもあわないし、食べられませんでした。たこ焼きや焼き内は食べますが、豚内は食べません。日本とインドネシアの焼き内の味はやっぱりちがいます。インドネシアでは豆の調味料を使ってとても辛いです。日本ではしょうゆとか塩の味です。社長は私をすきやへつれて行ってくれました。私はぎゅうどんとうなぎを食べました。美味しかったです。晩ご飯を食べながら、社長の息子と話して、じょうだんを言いました。言葉が分からないので社長の息子のスマホでつうやくしました。ばんご飯を食べた後でアパートへ帰って、日本語を勉強しました。日本語が上手になるようになりたいです。

1年前私は一人で日本に住んでいました。この会社では私がはじめての日本人です。先輩も同りょうもいません。会社に来た時社長と奥さんが何を話すのか分かりませんでした。仕事も日本語もぜんぜん分かりませんでしたがかんばって勉強しました。いつもじしょをもっています。仕事ときかいの使い方を忘れないようにノートに書きました。会社で社長に注意された時何を言っているのか分かりませんでした。仕

事で失敗をする自分がかなくくて、社長におこられて、なきました。そんな時奥さんはいつもやさしくしてくれました。私はどこでも一人で行きます。さんぼしたり、桜を見たりしました。とてもさびしかったです。桜を見ていると心がやすらかになりました。良かったです。男の子が私に桜の下で写真をとってくれました。アパートは誰もいません。一人で料理をしたり、掃除したりしました。でも、ラインとかフェイスブックをつないで、友達にれんらくができました。電話をかけたり、じょうだんしたりしました。

冬休みの2015年12月30日に友達が大阪からアパートへ来ました。私たちはいっしょにスキーをやって来ました。楽しいと思いますができませんでした。スキーじょうで写真をとったり、こおりであそんだりしました。本当に良かったです。腹がすいたり、つかれたし、みせでご飯を食べました。夕方までにアパートへ帰りました。はじめてスキーをしたので寒くて、2日ぐらびょうきになりました。友達がいるのでそれは良かったです。でも友達がすぐ大阪へ帰りました。一人でゆっくり休みました。1年たって、今は後輩が来ましたから二人でいっしょに行きます。桜を見たり、お祭りを見に行きました。今は仕事もだんだんできるようになりました。後輩に教えたり、社長のつうやくをしたり、できるようになりました。また1年ももっともつとがんばろうと思います。

佳作

叱られて良かった

ドー タイ ヒエン

DO THAI HIEN

国際交流事業協同組合／
新井植木

日本へ来てからもう二年が過ぎました。私は技能実習生として植木を扱う会社で働いています。会社にとっては初めてのベトナム人でベトナム人は現在三人働いています。日本人も勿論一緒に働いています。

最初の頃は大変困りました。言葉がわからないので仕事のやり方を教えてもらってもどのようにするのかわからなかったからです。新しい環境に慣れるのも本当に大変でした。来てすぐに雪が降ってベトナムとの気候の違いにびっくりしました。埼玉県では珍しく大雪だったそうです。食事を用意するためには買物をしなければなりません。何をやるにも日本語という言葉がわかっていなければなりません。会社の社長の話を聞いても一緒に働いている日本人の話を聞いてもわかりませんでした。職場ではいつも恐る恐る日本人のそばにいて黙って仕事をしていました。気持ちが落ち込んで毎日がつまらない時もありました。心の中で「ベトナムで勉強した日本語と日本人の話す日本語は違う！」と何度も思いました。ある時、日本人の先輩に「日本語は難しいですね！」と言いました。その時先輩は怒った様子で「お前の問題は日本語の能力がまだまだなんだよ！」と怒ったのです。私は悲しくなりました。しかし、そのように叱られて考えが変わりました。

日本語が難しいと思うならもっと勉強しなければなりません。日本の子供のような勉強を始め

る時でも毎日漢字を何回も書いて練習しなければならぬと思うようになりました。先輩に強く厳しく言われて今では良かったと感謝しています。

毎日、植木の手入れなどをしながら社長の教えをよく聞き、休憩の時には皆（日本人）の話に耳を傾けて、わからない言葉をメモして、後で辞書で調べています。漢字も覚えたいので、漢字を見つけると独り声に出して読み手のひらに指で書き練習しています。時々友達に笑われたり「バカ」と言われたりしましたが気にしませんでした。段々と日本語も覚え漢字も読んだり書いたり出来るようになりました。そして日本語を聞いたり話したりする時の恐れのが感覚が消えて自信がわいて来ました。自信を持って日本人と会話する機会が増えて来て楽しくなりました。頑張ったかいあって去年の七月にN3を合格しました。これからも努力を続け日本語をもっと覚えたいと思っています。会話が出来るといろいろな日本人といろいろな話が出来て心の世界が広がっていくと知りました。

先輩に厳しく言われた時は悲しくて寂しかったけれど、それがきっかけとなり私は頑張れたので有難いと思っています。将来どんな困難に出会っても困難を避けるのではなく、克服するように最後まで努力すれば結果が出るのだという事を学びました。

日本での技能実習生活は、あと一年です。仕事や日本語や日本の文化などたくさん学んで帰国したいと思っています。

佳作

日本は私の2番目の故郷

ハー ハイ イエン

HA HAI YEN

公益財団法人国際労務管理財団/
株式会社シーサット

子どものころ、私の夢は外国で生活し、仕事をすることでした。そんな目標をもって私は大人になり、日本で働くことを選びました。もう2年間日本に住んでいます。ここで私は沢山の経験を積んできました。はじめは多くの困難があり、生活と仕事の両立させることができず、悲しい気持ちと嬉しい気持ちが混乱して、毎日があっという間に過ぎていきました。ですが、この様々な困難によって、私は我慢強くなり、成長することができました。そして、困難から成長するのは一人ではできませんでした。熱心に教えてくれる日本人や先輩たち、他の国の友達と協力したからこそ、私は成長できたのだと思います。

私はベトナムのフート県の田舎に生まれました。私の故郷は田畑と山と木がたくさんあり、人々は農業で生活していました。貧しい土地ですが、人々はとても優しく、団結、協力して生活していました。そんな故郷から、日本の山口県に来て、私はベトナムの故郷と同じ印象を受けました。ここは田舎っぽくてたくさん田畑や木や山があります。空気もきれいで、私はすぐに日本での生活に慣れることができました。私は本当にラッキーだったと思います。しかし、環境は似ていましたがここは日本でした。仕事の中で日本人が話していることが全然わかりませんでした。私は日本語をもっと勉強することを決心しました。環境も言葉も私の第2の故

郷にしようと思ったのです。ミスをした時や、わからない時は日本人がよく教えてくれました。日々、自分の成長を感じて、私は嬉しくなりました。

そんな時、寂しいことがありました。重病だった父が亡くなったのです。ベトナムにいたころ、父は私に「失敗は成功のもと」とよく言っていました。失敗をしても、ダメだとばかり思わず、最後まで頑張れば必ず成功すると教えてくれました。なので私は悲しんでばかりいないで、努力をやめず、いつも笑顔で幸せになろうと思いました。父はいつも、上から見ていてくれていると思っています。

山口県での3年間の生活と仕事は特別な思い出として私の心の中に残るでしょう。この人々は優しく、この環境は空気がきれいで、心が和みます。まるでベトナムの故郷にいるようです。山口県は私の2番目の故郷と胸を張って言えます。

佳作

日本で見つけた宝物

グエン イック キエム
NGUYEN ICH KHIEM

共進情報事業協同組合／
井樋建設株式会社

私達には夢があります。皆さんは夢を追っていますか？私は今、夢に向かって道を歩いています、そしてその道で色々な宝物を見つけました。一つ目の宝物は自分への自信です、二年経っても出来なかったことが出来るようになりました。まさかそんなことなどあり得ないと思っていたことが出来たことです、会社の方のご協力で日常の会話が身に付いたり、仕事がうまくいったり、ゴルフまで教えて頂きました。又、日本には色々なスポーツとかゲームがありますがちょっとしたきっかけでパチンコ店へ行きました、勝ち負けがあり面白いゲームですが、勝つことは難しいと悟りました。日本へ来たばかりの頃は、まさかそんなことなど体験するはずがないと思っていましたが月日が経つにつれて感じたことですが、仕事に向かう上司、同僚の姿を見て、全部は無理にしても私にも出来ることがあるのではないかと気付きました。今は、自分さえ無理と思わなければ成功に近づくと考えています。夢があったら、夢をつかむのは自分の努力です。例えば、私はある日、うまくいくと思ってやった仕事に失敗してしまいました。もちろん、私達は人間ですから失敗を避けられません。しかし、その時上司の方は失敗を無駄にせず失敗から学ぶことを教えてくれました。誰かの成功をまねするだけでは、それを超える新しい成功はなかなか作り出すこともできません。むしろ、色々な人達の失敗や経験の中にこ

そ良いヒントがたくさん隠れています。やはり失敗は成功に不可欠な条件だと思いました。ところで、近ごろ私は自分の残り時間はいつまであるのかを良く考えます。私達にとって忘れることのできない東日本大震災では多くの人達が亡くなり、4月に発生した熊本地震でも1100人を超える死傷者が発生しましたし、私達の国で起こった悲劇、ベトナム戦争では比較にならないほどの800万人もの死傷者がありました。これらのことは私の考え方に大きな影響を与え、自分は生きているだけでとても幸運なんだと思えるようになりました。だれしも、明日にはなにが起こるか分からないのです。だからこそ、皆さんが今日は人生最後の日だと思い日々を一生懸命生きるべきです。これが最後に見つけた宝物でした。それに時間を有効に使うことが大切です。今日も明日も、どうすれば自分の時間を有効に使うべきかと考えて生きようと思います。私は夢を追う中に一番大切なものを見つけることができると思っています。日本で学んだことは私の宝物としてこれからも大切にしたいです。

2016年外国人技能実習生・研修生日本語作文コンクール優秀作品集

2016年10月発行

非売品

編集・発行 公益財団法人 国際研修協力機構
〒108-0023
東京都港区芝浦2-11-5 五十嵐ビルディング11階
電話 03-4306-1100 (代表)
FAX 03-4306-1112
ホームページ <http://www.jitco.or.jp/>

JITCO